目　次

学会長挨拶 …… 1

近畿学校保健学会 開催地・学会長 …… 2

第 71 回近畿学校保健学会開催要項 …… 4

参加受付等のご案内 …… 5

プログラム（一般演題） …… 7

教育講演 …… 9

シンポジウム …… 11

一般演題 …… 21

第 71 回近畿学校保健学会役員 …… 44

ご　挨　拶

第 71 回近畿学校保健学会
学会長　大川　尚子（京都女子大学）

第７１回近畿学校保健学会を京都女子大学において、6 月 22 日に開催させていただくにあたり、皆様に歓迎と感謝のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大による新しい生活様式や、新しい学校環境における教育が進められるなか、文部科学省の GIGA スクール構想（一人 1 台のタブレット端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現する）が 2020 年度に前倒して完全実施が行われました。

学校では教育の ICT 化が進められており、第 3 期教育振興基本計画でも、ICT 利活用のための基盤整備として、学校の ICT 環境整備を促進することが目標として位置づけられています。

令和 3 年 8 月には、文部科学省より「やむを得ず学校に登校できない児童生徒等への ICT を活用した学習指導等について」が通知されました。今後も感染症の感染拡大による臨時休業や出席停止等により、やむを得ず学校に登校できない児童生徒が増加することが想定された中での通知であり、感染症の流行下においても ICT を活用した指導を実施しながら教育活動を進めることが求められています。

その中で、学校保健活動でも様々な ICT を活用した取組みが進められています。不登校や発達課題のある児童生徒等への支援、院内学級・自宅療養の児童生徒の支援、保健教育でのプレゼンテーションや健康診断での事前指導、オンライン学校保健委員会や校務支援システムの活用、健康診断・健康観察等の情報の利活用等が考えられ、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、今後さらに活用を進めていく必要があります。

このようなことから、第 71 回大会においては学会テーマを「学校保健活動における ICT 活用」といたしました。シンポジウムでは、本学術集会のテーマに迫るために、様々な立場から教育現場等で ICT 活用を実践している方々にご提言いただき、フロアの皆様を交えて議論していきます。

また、教育講演は、宇治徳洲会病院 高度救命救急センター長 畑 倫明先生に、「その時、学校はパニックに？！ 救急・災害医療のプロフェッショナルが語るいざという時の対処方法」と題しご講演をお願いしています。今年の 1 月の能登半島地震でも、多くの学校が避難場所となり、学校教職員は現在もその支援にあたっておられます。その時学校は、教職員はどうすればよいのかを、参加者の皆様と一緒に考える機会としたいと思います。行き届かない点もあるかと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本学会を開催するにあたりご支援・ご後援いただきました京都府医師会、京都府歯科医師会、京都府薬剤師会、京都府教育委員会、京都市教育委員会の皆様、そして本学会の運営にご協賛、ご尽力いただきました皆様方、共催をしていただきました京都女子大学心理共生学部の皆様方に厚く御礼申し上げます。

近畿学校保健学会　開催地・学会長

回数	年次（西暦）	開催地	学会長	
第 1 回	昭和 29 年（1954）	大阪	伊東　祐一	（大阪学芸大学）
第 2 回	昭和 30 年（1955）	奈良	伊東　祐一	（奈良県立医科大学）
第 3 回	昭和 31 年（1956）	滋賀	伊良子光義	（滋賀県教育委員会）
第 4 回	昭和 32 年（1957）	和歌山	吉武　弥三	（和歌山県立医科大学）
第 5 回	昭和 33 年（1958）	京都	川畑　愛義	（京都大学）
第 6 回	昭和 34 年（1959）	兵庫	竹村　　一	（神戸大学）
第 7 回	昭和 35 年（1960）	大阪	富士　貞吉	（大阪学芸大学）
第 8 回	昭和 36 年（1961）	奈良	岩田　正俊	（奈良学芸大学）
第 9 回	昭和 37 年（1962）	滋賀	伊良子光義	（滋賀県教育委員会）
第 10 回	昭和 38 年（1963）	和歌山	小出　陽三	（和歌山県教育委員会）
第 11 回	昭和 39 年（1964）	京都	川畑　愛義	（京都大学）
第 12 回	昭和 40 年（1965）	兵庫	佐守　信男	（神戸大学）
第 13 回	昭和 41 年（1966）	大阪	伊東　祐一	（大阪学芸大学）
第 14 回	昭和 42 年（1967）	奈良	永井豊太郎	（天理大学）
第 15 回	昭和 43 年（1968）	滋賀	大西　輝彦	（滋賀県教育委員会）
第 16 回	昭和 44 年（1969）	和歌山	白川　　充	（和歌山県立医科大学）
第 17 回	昭和 45 年（1970）	京都	米田　幸雄	（京都教育大学）
第 18 回	昭和 46 年（1971）	兵庫	佐守　信男	（神戸大学）
第 19 回	昭和 47 年（1972）	大阪	上林　久雄	（大阪教育大学）
第 20 回	昭和 48 年（1973）	奈良	橘　　重美	（天理大学）
第 21 回	昭和 49 年（1974）	滋賀	山田　　一	（滋賀大学）
第 22 回	昭和 50 年（1975）	和歌山	武田眞太郎	（和歌山県立医科大学）
第 23 回	昭和 51 年（1976）	京都	山岡　誠一	（京都教育大学）
第 24 回	昭和 52 年（1977）	兵庫	美崎　教正	（神戸大学）
第 25 回	昭和 53 年（1978）	大阪	安藤　　格	（大阪教育大学）
第 26 回	昭和 54 年（1979）	奈良	出口　庄祐	（奈良女子大学）
第 27 回	昭和 55 年（1980）	滋賀	宮田　栄子	（滋賀大学）
第 28 回	昭和 56 年（1981）	和歌山	武田眞太郎	（和歌山県立医科大学）
第 29 回	昭和 57 年（1982）	京都	北村　李軒	（京都大学）
第 30 回	昭和 58 年（1983）	兵庫	山城　正之	（神戸大学）
第 31 回	昭和 59 年（1984）	大阪	後藤　英二	（大阪教育大学）
第 32 回	昭和 60 年（1985）	奈良	中牟田正幸	（奈良教育大学）
第 33 回	昭和 61 年（1986）	滋賀	林　　正	（滋賀大学）
第 34 回	昭和 62 年（1987）	和歌山	松岡　勇二	（和歌山大学）
第 35 回	昭和 63 年（1988）	京都	金井　秀子	（京都教育大学）
第 36 回	平成元年　（1989）	兵庫	住野　公昭	（神戸大学）
第 37 回	平成 2 年（1990）	大阪	大山　良徳	（大阪大学）

回数	年次（西暦）	開催地	学会長
第 38 回	平成 3 年（1991）	奈良	河瀬　雅夫（天理大学）
第 39 回	平成 4 年（1992）	滋賀	林　　正（滋賀大学）
第 40 回	平成 5 年（1993）	和歌山	猪尾　和弘（和歌山大学）
第 41 回	平成 6 年（1994）	京都	八木　　保（京都大学）
第 42 回	平成 7 年（1995）	兵庫	勝野　眞吾（兵庫教育大学）
第 43 回	平成 8 年（1996）	大阪	一色　　玄（大阪市立大学）
第 44 回	平成 9 年（1997）	奈良	山本　公弘（奈良女子大学）
第 45 回	平成 10 年（1998）	滋賀	大矢　紀昭（滋賀医科大学）
第 46 回	平成 11 年（1999）	和歌山	宮下　和久（和歌山県立医科大学）
第 47 回	平成 12 年（2000）	京都	寺田　光世（京都教育大学）
第 48 回	平成 13 年（2001）	兵庫	三野　　耕（兵庫教育大学）
第 49 回	平成 14 年（2002）	大阪	堀内　康生（大阪教育大学）
第 50 回	平成 15 年（2003）	奈良	北村　陽英（奈良教育大学）
第 51 回	平成 16 年（2004）	滋賀	大矢　紀昭（滋賀大学）
第 52 回	平成 17 年（2005）	和歌山	宮西　照夫（和歌山大学）
第 53 回	平成 18 年（2006）	京都	津田　謹輔（京都大学）
第 54 回	平成 19 年（2007）	兵庫	石川　哲也（神戸大学）
第 55 回	平成 20 年（2008）	大阪	白石　龍生（大阪教育大学）
第 56 回	平成 21 年（2009）	奈良	辻井　啓之（奈良教育大学）
第 57 回	平成 22 年（2010）	滋賀	中川　雅生（滋賀医科大学）
第 58 回	平成 23 年（2011）	和歌山	森岡　郁晴（和歌山県立医科大学）
第 59 回	平成 24 年（2012）	京都	井上　文夫（京都教育大学）
第 60 回	平成 25 年（2013）	兵庫	鬼頭　英明（兵庫教育大学）
第 61 回	平成 26 年（2014）	大阪	平田　まり（関西福祉科学大学）
第 62 回	平成 27 年（2015）	奈良	高橋　裕子（奈良女子大学）
第 63 回	平成 28 年（2016）	滋賀	高野　知行（滋賀医科大学）
第 64 回	平成 29 年（2017）	和歌山	内海みよ子（和歌山県立医科大学）
第 65 回	平成 30 年（2018）	京都	小谷　裕実（京都教育大学）
第 66 回	令和元年 （2019）	兵庫	大平　曜子（兵庫大学）
第 67 回	令和 2 年（2020）	大阪	楠本久美子（四天王寺大学）
第 68 回	令和 3 年（2021）	奈良	高田恵美子（畿央大学）
第 69 回	令和 4 年（2022）	滋賀	高野　知行（びわこ学園医療福祉センター野洲）
第 70 回	令和 5 年（2023）	和歌山	入駒　一美（東京医療保健大学）
第 71 回	令和 6 年（2024）	京都	大川　尚子（京都女子大学）

第 71 回近畿学校保健学会開催要項

【テ ー マ】　「学校保健活動における ICT 活用」

【日　　時】　2024 年 6 月 22 日（土）10：00～17：00

【会　　場】　京都女子大学　E 校舎（プリンセスラインバス停前 B 門を入って正面）
〒605-8501　京都市東山区今熊野北日吉町 35
URL：https://www.kyoto-wu.ac.jp/access/index.html

時 刻	事 項	場 所
9:30～	受付開始	E 校舎学生ホール
10:00～11:45	一般演題発表 A 会場【講義室 E101】 B 会場【講義室 E102】	E 校舎 【E-101・102】
12:00～13:00	ランチョンセミナー ノボノルディスクファーマ株式会社協賛 「成長曲線からみる子どもの発達 ～そこからわかる成長障害～」 講師　こうどう小児科　　幸道和樹 座長　京都女子大学 教授 井上文夫	E 校舎【E-103】
13:10～13:50	総会	E 校舎【E-103】
14:00～15:10	教育講演 「その時、学校はパニックに？！ 救急・災害医療のプロフェッショナルが語るいざという時の対処方法」 講師　宇治徳洲会病院 高度救命救急センター長 畑　倫明 座長　京都女子大学 教授　西岡伸紀	E 校舎【E-103】
15:10～15:20	休 憩	
15:20～16:40	シンポジウム 「学校保健活動における ICT 活用」 コーディネーター　京都女子大学 教授　大川尚子 シンポジスト 京都市立川岡東小学校　校長　岡本雅文 大阪府立吹田東高等学校　養護教諭　鈴木秀子 京都府医師会　松田義和 京都府歯科医師会　河野　亘 京都府薬剤師会　守谷まさ子	E 校舎【E-103】
16:50～17:00	表彰式・閉会式	E 校舎【E-103】
17:30～19:00	懇親会（情報交換会）	E 校舎カフェテリア

参加受付等のご案内

◆受付時間・場所

2024 年 6 月 22 日（土）9：30～
京都女子大学　E 校舎前・学生ホール（バス停前 B 門入ってすぐ）

◆受付等について

① 学会正会員
・参加費 1,000 円をお支払いの上，名札と講演集をお受け取りください。
・2024 年度年会費未納の方は，年会費 3,000 円を学会本部事務局にお納めください。年会費の納入がない場合，参加費が当日会員と同じく 2,000 円となりますのでご注意ください。

② 当日会員
参加費 2,000 円をお支払いの上，名札と講演集をお受け取りください。

③ 当日学生会員（参加費：大学院生 1,000 円，学部学生 500 円）
大学院生，学部学生は学生証を提示ください。提示のない場合，当日会員扱いになります。

④ 新規入会希望者
受付で入会申込用紙を受け取り，必要事項をご記入の上，年会費 3,000 円を学会本部事務局にお納めください。

⑤ 昼食
参加申込時にランチョンセミナーにお申込みください。
E 校舎 2 階のカフェテリアもご利用できます。
会場の周辺には，あまり飲食店がありません。

⑥ 懇親会
参加申込時に懇親会（会費 4,000 円）にお申込みくいださい。

※ 名札には氏名・所属をご自身でご記入の上，会場では必ずご着用ください。

◆一般演題発表者の方へ

① 前演者の講演が始まると同時に，各会場前方の次演者席にご着席ください。
② 発表は，1 演題につき，発表 8 分，討論 4 分です。時間を厳守してください。
③ 学会当日は，発表用のプロジェクター，コンピュータ(PC)を準備いたします。
④ 発表用 PC は，Windows 11 で，アプリケーションは Microsoft PowerPoint 2019 になります。発表用ファイルは, 2024 年 6 月 14 日(金) 17 時までに学会事務局にメールでお送りください。
⑤ PC を持ち込んで発表される場合，プロジェクターの接続コネクターは HDMI です。PC のモニター出力端子の形状をご確認のうえ，必要に応じて変換コネクター(ケーブル)等をご用意ください。
⑥ 動画の使用は，原則としてお控えください（必要な場合は事務局で相談に応じますので，事前にご連絡ください)。
⑦ 資料を配布される場合は 50 部程度ご用意ください。

◆座長の先生方へ

① 前座長の登壇後，前方の次座長席にご着席ください。
② 受け持ち時間の進行は一任しますが, 1 題あたり 12 分以内でご進行いただきますようお願いします。(6 分で 1 鈴、7 分で 2 鈴、11 分で 3 鈴の予定)
③ 慣例により，後日「学会通信」用の座長のまとめ（1 演題 250 字程度）を年次学会事務局までご提出いただきますようお願いします。締切は 2024 年 7 月 19 日(金)です。

◆当日の学会開催中の連絡先

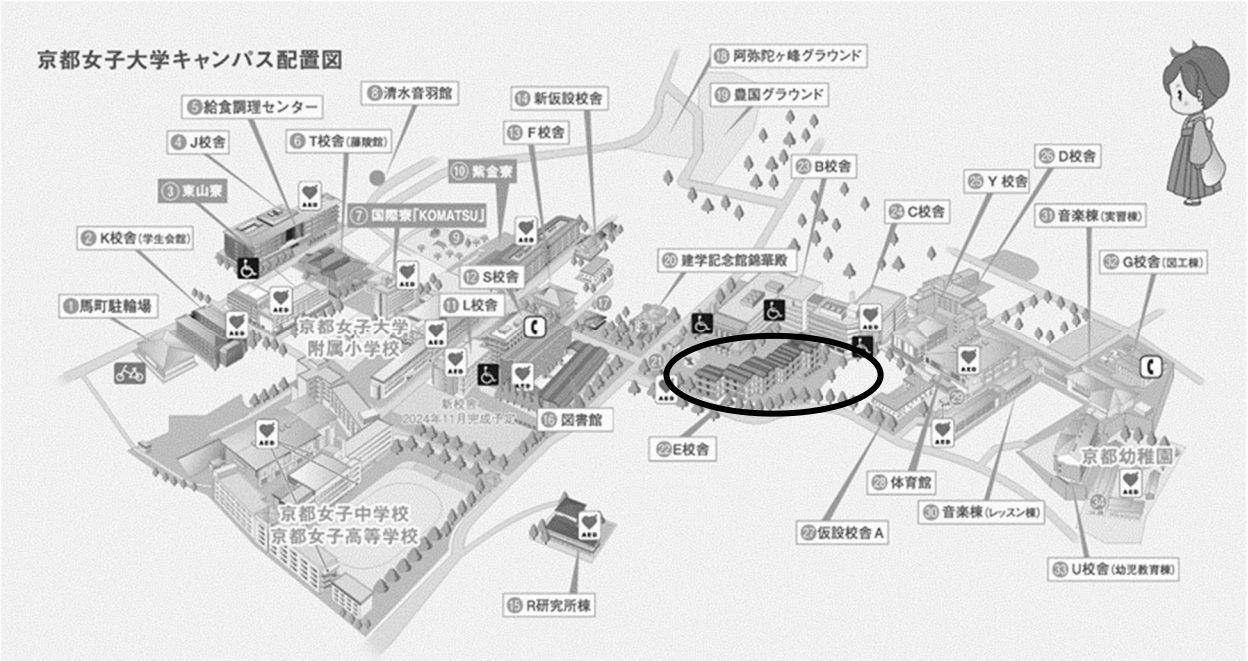
・ 第 71 回近畿学校保健学会事務局　e-mail：71ksha@kyoto-wu.ac.jp

◆その他

・ 学会開催時間内は, 携帯電話などの通信機器類はマナーモードにするか電源をお切りください。
・ 会場は敷地内を含めて禁煙です。ご協力をお願いします。
・ 手荷物預かり（クローク）のサービスは行いません。

◆会場までのアクセス

＜JR・近鉄「京都」駅から＞
市バス 206 系統・208 系統または 100 系統で約 10 分、「東山七条」で下車し、東へ徒歩約 5 分。
＜京都駅八条口から＞
プリンセスラインバスで約 10 分、「京都女子大学前」で下車。
＜京阪「七条」駅から＞
東へ約 1.2km（徒歩約 15 分）、プリンセスラインバスで約 5 分、「京都女子大学前」で下車。
＜阪急「京都河原町」駅から＞
1 番出口から、徒歩約 5 分で京阪「祇園四条」駅へ、京阪「七条」駅で下車し、東へ徒歩約 15 分。
6 番出口から、市バス 207 系統で約 15 分、「東山七条」で下車し、東へ徒歩約 5 分。
2 番出口から、河原町通を南へ約 80m、プリンセスラインバスで約 15 分、「京都女子大学前」で下車。
＜プリンセスライン＞
JR 京都駅・四条河原町から京都女子大学までの直通バス運行！
※スクールバスではなく公共の路線バス（片道 230 円：現金のみ）です。
※プリンセスライン乗り場⇒https://www.kyoto-wu.ac.jp/access/
※プリンセスライン時刻表⇒https://www.kyoto-wu.ac.jp/access/bus.html　　＜アクセス＞
＜お車の場合＞
※大学には駐車場がありませんので、バス停先の豊國廟駐車場（1 日 500 円）をご利用ください。



一般演題発表プログラム

A 会場

＜養護教諭，性教育＞　10：00～10：48　座長　古川恵美（兵庫県立大学）

A-1　小学校養護教諭の保健授業への参画状況と授業の困難さに関するアンケート調査－兵庫県内10 地域の比較検討より－
○岡本　希（兵庫教育大学大学院学校教育研究科），伊藤 武彦（岡山大学大学院教育学研究科）

A-2　小学校 4 年生における未来を肯定的に捉えた体の発育・発達の学習の評価 ―養護教諭が関わったWYSH 教育の取り組みより―
○山田麻美（宝塚市立売布小学校），西岡伸紀（京都女子大学），岡本　希（兵庫教育大学）

A-3　中学校の性に関する指導の実態及び関連意識 －教員と外部講師（助産師）に対する質問紙調査結果の比較－
○森本雅子（三木市健康福祉部健康増進課），西岡伸紀（京都女子大学），岡本　希（兵庫教育大学）

A-4　軽度知的障害・発達障害のある特別支援学校高等部生徒における性の個別学習の体験―学習者の語りを通して
○鶴岡尚子（東京医療保健大学和歌山看護学部）

＜養護・連携＞　10：48～11：36　座長　長谷川法子（京都府総合教育センター）

A-5　雑誌『養護』における養護概念に関する検討
○高橋裕子（天理大学体育学部）

A-6　学校における養護教諭の校務の情報化に関する実践的研究
○酒井隆子（丹波市立青垣中学校），佐々木美奈（横浜市立南台小学校），島田郁未（横浜市立下永谷小学校）

A-7　学校の自殺対策における SC や SSW との協働ネットワークの機能化
○細川愛美（神戸女子大学），三木澄代（関西福祉大学），目久田純一（梅花女子大学），服部紀代（兵庫大学）

A-8　特別養子の保護者に対するペアレント・トレーニングの実践～学校生活に関連する保護者の語り～
○古川恵美（兵庫県立大学，畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター），石崎優子（関西医科大学），池田友美（摂南大学），中村　恵（畿央大学）

B 会場

＜保健管理＞　10：00～10：48　座長　八木利津子（桃山学院教育大学）

B -1　小学校高学年児童における食生活リテラシーの機能と要因

〇浅沼徹（京都教育大学），原口由子（木津川市立相楽小学校），星澤玲於奈（京都教育大学大学院連合教職実践研究科）

B -2　市販の体組成計で測定した小・中学生の体組成結果の有用性について

〇中村晴信（関西医科大学），小原久未子（関西医科大学），間瀬知紀（京都女子大学），桃井克将（京都女子大学），藤田裕規（近畿大学），甲田勝康（関西医科大学）

B -3　起立性調節障害のある児童生徒の学校生活に関する文献検討

〇木原彩子（兵庫県立大学看護学研究科博士前期課程），谷田恵子（兵庫県立大学），古川惠美（兵庫県立大学）

B -4　コロナ時代における思春期のメンタルヘルスに関する国内の研究動向

〇川勝佐希（関西福祉大学）

＜大学生＞　10：48～11：36　座長　藤原　寛（元京都府医科大学）

B -5　女子大学生の援助希求能力と阻害要因

〇市ノ瀬菜々（明石市立大久保小学校），井上文夫（京都女子大学心理共生学部）

B-6　大学生における合理的配慮提供による効果の検討

〇嶺　哲也（京都橘大学），竹端佑介（摂南大学）

B-7　大学生の対人場面における主観的な身体感覚反応と抑うつについて

〇竹端佑介（摂南大学），高山昌子（大阪国際大学），後和美朝（摂南大学）

B-8　不登校支援におけるボランティア活動の有用性

〇八木利津子（桃山学院教育大学）

教育講演

「その時、学校はパニックに？！

救急・災害医療のプロフェッショナルが語るいざという時の対処方法」

講師：　畑　倫明　氏

宇治徳洲会病院 高度救命救急センター長

＜講師略歴＞
1989 年奈良県立医科大学医学部 卒業
【専門分野】救急 外科 災害医療
日本救急医学会専門医/指導医、日本外科学会専門医/指導医、日本消化器外科学会専門医/指導医、日本消化器内視鏡学会専門医/指導医、日本腹部救急医学会認定医/教育医
【資格等】日本災害医学会評議員、京都府立医科大学臨床教授、奈良県立医科大学非常勤講師、びわこリハビリテーション専門職大学非常勤講師、日本 DMAT 隊員兼インストラクター、ATOM コース インストラクター、MCLS コース インストラクター・世話人
国際緊急援助隊登録隊員（派遣実績：2004 年タイ、2005 年パキスタン、2008 年中国四川、2010 年ハイチ、2011 年ニュージーランド）

＜講演要旨＞
近年、大規模災害の起こらない年がないほど、災害が多発しています。今年 1 月 1 日に発生した能登半島地震の被災地では今もまだ災害は現在進行形です。
私たちは「自分だけは大丈夫」という「正常性バイアス」に陥っていませんか？ 東海・東南海・南海地震の発生確率は今後 30 年で 70%と想定されています。つまり、この話を聞いてくださるほとんどの皆様はこの震災を経験する可能性が極めて高いということです。
震災に限ったことではありません。洪水、大事故、熱中症、感染症など、学校を襲う災害は考えられるものだけでも極めて多彩です。その時、皆様はどう行動したら良いでしょうか？ 一緒に考えてみましょう！

シンポジウム

「学校保健活動における ICT 活用」

座　長

大川 尚子（京都女子大学 心理共生学部 教授）

シンポジスト

岡本 雅文（京都市立川岡東小学校　校長）

鈴木 秀子（大阪府立吹田東高等学校　養護教諭）

松田 義和（京都府医師会）

河野　亘（京都府歯科医師会）

守谷まさ子（京都府薬剤師会）

自分の体と向き合い主体性を育む夏期健康学園

岡本雅文　京都市立川岡東小学校

キーワード：自分でなおそうぜんそく　主体性　つながり　健康課題

１【夏期健康学園とは】　夏期健康学園は、京都市小学校の教員や養護教諭で構成される研究団体、小学校保健研究会が主体となって、『喘息のある児童の健康・保持増進を図るため、適切な健康管理と指導を行い、積極的、規律的な生活態度を身につけさせる』ということを目的として活動してきた取り組みである。

昭和 38 年度からの事業で、京都市の児童の健康状態の課題を少しでも克服できるように、「喘息」「虚弱」「肥満」の児童を対象に取り組み始めた。社会構造や児童の健康状態や生活習慣などの変化に伴い、昭和53年度より、「喘息」にり患している児童に特化して取り組みを進めてきた。

２【活動方法とは】　夏休みの長期休業期間を活用して、喘息にり患している京都市の児童に広く呼びかけ、参加を希望した３年から６年の児童を京都市の野外活動施設（平成７年度から花背山の家）で宿泊を伴って、喘息が起こる要因や発作時の対応の仕方、また、発作を起こりにくくするための日々の生活の仕方などを学んだり、リクレーション活動等で同じ病をもつ児童との交流をしたりする中で、病気に関する知識や仲間とのつながりを深めてきた。喘息に関する学習にかかわっては、喘息学習①～④を考え、養護教諭と教諭が連携しながら学習を進めてきた。

〇喘息学習①（全体）「喘息学習の意義・目的を知り、自分のめあてを考え、学習の見通しを持つ」

〇喘息学習②（学年ごと）「喘息体操についての学習・腹式呼吸を学び、これからの生活についてつなげられるようにする」

〇喘息学習③（学年ごと）「喘息の発作の原因を知り、発作時の正しい処置の仕方を理解している」

〇喘息学習④（全体）「喘息を治すための生活の仕方を知り、実践できることを考える」

それ以外に、腹式呼吸の仕方や呼吸筋を鍛える喘息体操を実施し、事業後の日常生活に生かしている実践的な方法を学ぶようにして、「自分でなおそう　ぜんそく」を合言葉に、主体的な実践的な生活態度となるように計画立案実施してきた。

３【取り組みを通して】　喘息にり患している児童の多くは、発作時を経験していることもあり、運動や活動に対して消極的である児童が多く、喘息発作を起こさないために、運動制限などの要因で、体力に自信のない児童も多かった。しかし、この取り組みに参加し、発作時の対処方法を知ることで、種々の活動に積極的に挑戦できるようになったり、同じ病を持つ仲間できたことで、前向きに生活できるようになったりしたという声を保護者からいただくことが多く、この事業の成果を感じていた。

４【今後について】　近年は、医療の発達やライフスタイルの変化など年々参加児童が減少してきた。その上、喘息にり患していても、重症な児童は少なく、多くは薬で対応できるようになり、この事業の意義が少なくなってきているように思われた。また、新たな健康課題も出てきて、児童の実態に大きな変化が出てきた。

そこで、夏期健康学園の在り方を見なおし、現代の健康課題に即し、保護者や児童のニーズに合った取り組みを進めていくことを考えた。

令和３年度から、６１回目以降の健康学園について、新たな健康課題に即した取り組みになるよう、検討を重ね、令和５年度からは、京都女子大学に連携していただき、４つの健康課題、①「これであなたも目のマスター」、②「自分の歯は元気かな？」、③「身にせまる？！くすりのひみつ」、④「気持ちをコントロールするには？」についてテーマに設定して、学習会を行うこととした。　６２名の事前申し込みがあり、大きなニーズを感じる取組となった。

今後は、この取組を継承しつつ、時代や社会の情勢を鑑み、ますます発展していけるように、充実させてさせていきたいと考えている。

養護教諭の ICT 活用 - 今まで・これから -

鈴木秀子　大阪府立吹田東高等学校

キーワード　養護教諭　ICT 活用　学校保健活動

【2020・2021 年度 ICT 化①　突然のコロナ過】
・2020 年度は、学校の ICT 環境を含めて学校教育全体が大きく変わった 1 年であった。2019 年 3 月 2 日、準備をする間もなく始まった全国一斉臨時休業。4 月に入っても休業は続き、その期間は 3 か月に及んだ。学びの保障の観点から１人１ 台端末と高速大容量の通信ネットワークの整備等が始まり、私は必要に迫られて、性教育講演会のオンライン実施・大阪府立学校保健研究発表大会への動画作成による発表・オンライン健康観察・オンライン面談等を経験した。利用してみて、ICT を活用すれば今まで必要性がありながらも実施できなかった保健教育等が企画できるのではないか、業務が効率化できるのではないかと ICT の有用性を知った。
・2021 年度は保健室経営目標に、“ICT 活用した保健教育”と“教育相談体制に充実”をあげ、計画的に取組んだ。保健教育は、「健康診断の結果から健康課題を考える」の課題を配信しオンライン提出、教室での一斉オンライン性教育講演会、養護教諭が行う保健の授業「精神疾患について」・各教室で Web 会議システムを使った SST 講座・生命（いのち）の安全教育等を行った。
教育相談体制の充実は、QR コードを使った教育相談の申し込み、オンライン面談。その他、生徒保健委員会（保健探究班）の活動、保健室登校生徒の学習支援、業務の効率化でも ICT を活用した。「あんな事ができるのではないか」「こんなことはどうだろう」と試行錯誤したが、失敗もあり反省の多い 1 年だった。
【2022・2023 年度 ICT 化②　新たな日常生活】
・2022 年度は、徐々に行動制限が緩和され、不安を抱えながら新たな日常生活を模索した。学校の ICT 環境が整い始め ICT が学校教育の一部となり、誰もが使用するものになることで、“使う人”の技術やモラルが課題となった。
保健教育は、兼職発令を受け保健の授業「精神疾患について」を全クラスで実施した。個々の意見を共有し意見交換をするなど双方向性を大切にした授業内容にし、教育内容の充実と指導方法の改善を行った。SST 講座・生命（いのち）の安全教育等も双方向性を大切にした内容・方法に改善した。教育相談体制の充実は、SC.SSW、関係機関と連携した指導を行いながら組織体制を整備した。QR コードをもちい教育相談の申し込み方法の配信時に SC.SSW からのメッセージを同時配信した。組織体制を整備は、大阪府高等学校教育支援センター―に通う生徒の方針を明文化し、オンライン授業を含め出席や成績の扱いを明確にした。校内組織である教育相談委員会に成績に配慮の検討が必要な生徒の支援について検討する“分科会”を設置し、オンライン授業の出席や評価の扱いを組織的に検討するように組織体制を整備した。ここまでの知見を共有し活用するために、公開授業の実施・実践発表など積極的に情報発信を行った。
・2023 年度は、行動制限が解除され基本的な感染症対策を行いながら全ての学習活動が制限なく実施できるようになった。更なる ICT 活用・技術の改善、健康課題や生徒の実態に合った最適化、デジタルとアナログのベストミックス等を探りながら、ICT 活用することで得たデータを利活用した取組みを行った。保健教育は、アプリを活用した個別の健康教育を行った。健康相談体制の充実は、ICT を支援につなげるきっかけの一つと捉え、対面での支援を大切にした。SC と連携して、音楽やからだの動きを使ったリラクゼーション講座を実施した。
【2024 年度～ 教育 DX　脱コロナ】
コロナ過対応として急進した ICT 活用は、ICT 化から教育 DX の段階を迎えている。生涯を通じた教育データの利活用が進められており、学校健康診断情報の PHR での利用もその一部である。今、改めて重要となるのがヘルスリテラシー教育であると考える。 特にインターネット・スマートフォン・SNS・健康アプリを活用したデジタルヘルスリテラシー教育を進める必要がある。そして自分で意思決定できる力の育成し、生涯にわたって健康データや情報を自分で管理・活用できる力を育成していきたい。

学校保健現場におけるＩＣＴの利活用について

松田義和　京都府医師会

昨今医療現場においては、国主導で地域連携・ＰＨＲ（Personal Health Record）の必要性がさけばれ、医師会事業の中でもさまざまな取り組みがされてきた。

京都府医師会では、医療・介護情報の共有・連携に活用のため、2016 年 8 月から「京あんしんネット」を稼働させてきた。これは患者・患児の情報・状況を関係者間でリアルタイムで共有するシステムである。

昨今増加傾向にある医療的ケア児においては、保護者・学校・各種事業所・医療機関で連携が必須であるが、その際にも非常に有用であり今後の利活用が望まれる。現状では学校関係者の利用は限定的であるが、これまでの取り組みと今後の利用に向けて説明する。

また、新型コロナ感染症が記憶に新しいところではあるが、本来感染症情報は、行政・地域・医療機関が緊密に連携すべきであるが、従来学校現場の参加は十分ではなかった。

これに対応すべく児童・生徒の感染症情報を医療機関・地域・学校現場で共有するため、全国で「学校等欠席者感染症情報システムが」稼働している。京都府医師会では京都府と連携しこの利活用を推進しているが、残念ながら京都市が採用しておらず、有効に利用されているとはいいがたい。このシステムの実際と利活用の問題点も含めて検討したい。

コロナ禍における学校歯科保健の現状
－ICT を活用した歯磨き巡回指導などについて－

河野　亘　京都府歯科医師会

キーワード：学校歯科保健、ICT、GIGA スクール構想、歯磨き巡回指導

京都府歯科医師会の広報誌「KYO の歯」（2023 年、第３号）での、稲田新吾京都市教育長のインタビュー記事（詳しくは QR コード参照）によれば、京都市の小学校給食では、食育という観点からも、生きた教材である給食を通して、子どもたちが食文化への理解を深めることができるよう、月１回程度、「和食推進の日」を設定しており、また中学校についても、「全員制給食」を視野に入れ、時代の動向に合った給食のあり方を検討中とのことであるが、子どもたちが、京都の美味しい給食を「カリカリ」、「サクサク」などの食感を共有しながら楽しむためには、センサーである歯と口の健康がとても大切である。

風邪やインフルエンザなどの体調不良、さらには 2020 年、世界でパンデミックの猛威を振るった新型コロナウイルス感染症（COVID－19）での初期症状として、嗅覚や味覚が減退あるいは消失すると報告された。また高齢になるとともに味覚を感知する細胞が減少するので、味覚は老化により感じにくくなり、結果として塩加減など少し濃い目の味付けになりやすく、高血圧症などへのリスク回避、健康面の配慮から減塩が推奨されることになる。しかし食感は健康な歯さえ有れば保たれる感覚である。そこで人生 100 年時代を家族とともに過ごし、「美味しい」食を共有し、さらに「オーラルフレイル」を予防して、より豊かな QOL を目指すにあたり、その始まりとして学校歯科健診、フッ化物洗口、歯磨き巡回指導など学校歯科保健活動の大切さを、改めて学校歯科医の立場から提言したい。

コロナ禍の影響で２年間中止となっていた歯磨き巡回指導を、2022 年度はオンライン配信という新しい形態で、京都市内 19 校、京都府下 18 校で行った。 学校現場での『GIGA スクール構想』が着実に進んでいるようで、ネット環境も良好で、別室からのプレゼン内容が教室の大画面モニターに鮮明に配信され、子供たちはなんの躊躇もなくオンラインによる新しい形での歯磨き指導を体験した。

今後この方法を応用すれば、教室の全学年、全生徒にハイブリッドでの歯磨き指導が可能になり、さらに生徒はインカメ付きのタブレットを持っているので、インカメで一人一人の歯磨きの様子もホストモニターから観察可能になるはずで、より進化した歯磨き指導の可能性も感じた。

オンラインでの歯磨き巡回指導を含めて、ICT を活用した学校歯科保健活動が、今後ますます京都府全域の小学校でさらに拡大することを、おおいに期待する。

interview

KYOの歯「こども号」記念インタビュー

京都市学校教育における「歯と口」の現在と未来

幼児期、学齢期は生涯健康の土台をつくる大切な時期。京都市と京都府歯科医師会は連携し、子どもの健康な「歯と口」をサポートしています。その取り組みなどについて、京都市教育委員会の稲田新吾教育長にお話を伺いました。

京都市教育長 稲田 新吾

インタビューを終えて

Webでは拡大版を掲載！教育現場での取り組みを、より詳しく紹介しています。

【参考文献】

河野　亘, 岸本知弘：日本語オノマトペを通して, 人生 100 年時代を「美味しく」過ごすために. 和食文化研究,3: 82～99, 2020.

河野　亘, 岸本知弘, 安岡良介：歯科領域における日本語オノマトペの奥深さ. 日本歯科医師会雑誌,75（5）： 353～360, 2022.

「KYO の歯」（第３号）, 2023.

薬物乱用防止教育に向け　～学校薬剤師の IT 活用の一歩～

守谷まさ子　京都府薬剤師会学校薬剤師部会

キーワード：学校薬剤師　学校保健　薬物乱用防止教育，IT 活用

【目的】

薬の正しい使い方を知ることは、生涯に渡り、自身の健康を維持するための基本条件である。学校薬剤師の保健指導の時間に ICT を活用した「薬教育、薬物乱用防止教育」を生徒のタブレットを利用し参加型の講義を、保健部教諭、養護教諭、担任の協力の下行い、ＩＣＴ利用の講義による理解について検証。

【方法】

薬の正しい使い方「○×クイズ」形式で設問の PPT 作成し、事前に学校へ送付、回答後解説を行うこととした。講義対象は、A 高等学校２学年生徒４１名。

方法：タブレット操作は保健部長の K 先生。生徒タブレット内のロイロノートを立ち上げ、○×クイズの回答を○と答える生徒が赤、×は白を提出箱に送信、スクリーンに生徒の回答が即刻赤白で表示されるという方法。効果は生徒の感想をもって行う。

【結果】

スクリーンに全員の回答が一度に出て、○×の割合が一目瞭然となった。

《生徒の感想一部》

・クイズに参加しながら正しいことが学べたので良かった。

・薬を購入するときは、まず目的を明確にして、それに合った薬を選ぶことが大切だと分かった。

・薬は量と飲むタイミングを間違えるととても危険なことになるので、考えながら薬を使いたいと思いました。

・自分は花粉症で薬を飲みます。その時、飲みすぎたり、ジュースで飲んだりしないようにしたいです。

・薬というものは便利で役立つけれど、使い方を誤ってしまえば命にかかわることになるので、気を付けたいと思いました。

【考察】

・クイズを正面からとらえ回答することで、自分自身の考えをまとめ、くすりの正しい使い方の理解につながり、行動につながると思われる。・毎日使用しているタブレットの活用で講義内容の理解度が個別に見ることができる。

・一人一人の結果が出て、全員の中で自分の回答もみることができる。自分の考えと違う答えが出た時、振り返り軌道修正につながる。

・薬の正しい使い方を知ることで、自身を大切にし、オーバードーズの防止につなぐ。

ランチョンセミナー

協賛：ノボノルディスクファーマ株式会社

「成長曲線からみる子どもの発達～そこからわかる成長障害～」

講師　こうどう小児科　幸道和樹　氏

＜講師略歴＞
平成 19 年 3 年 近畿大学医学部卒業
平成 19 年 4 月 京都第二赤十字病院 臨床研修医
平成 21 年 4 月 京都第二赤十字病院 小児科
平成 23 年 4 月 京都府立医科大学附属病院　小児科入局
平成 24 年 4 月 京都府立医科大学医学部大学院博士課程
平成 28 年 4 月 京都府立医科大学大学院医学研究科 助教および京都府立医科大学附属北部医療センター医員
平成 31 年 4 月 済生会京都府病院 小児科医長
令和 4 年 4 月 こうどう小児科 勤務

一般演題

A－1

小学校養護教諭の保健授業への参画状況と授業の困難さに関するアンケート調査
―兵庫県内 10 地域の比較検討より―

岡本　希[1)]，伊藤 武彦[2)]，

1）兵庫教育大学大学院学校教育研究科，2）岡山大学大学院教育学研究科

キーワード：小学校，養護教諭，保健授業

【目的】 小学校の保健で取り扱われる単元は、生活のしかた、清潔、身の回りの環境、二次性徴、心の発達、心と体のつながり、不安や悩み、けがの予防、事故の防止、疾患の機序、飲酒・喫煙・薬物防止など広範囲である。児童生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進する資質と能力の育成を目指す保健授業の役割は大きい。保健の授業の質を高めるためには、養護教諭が授業の困難さを感じる単元を把握し、改善策の検討が必要である。本研究では、兵庫県内の小学校養護教諭対象にアンケート調査を実施し、保健授業への参画と授業の困難さを 10 地域で比較することとした。

【方法】 2022 年 9 月下旬から 10 月末にかけて、兵庫県内の公立（729 校）、私立（11 校）、国立（2 校）の小学校に勤務する養護教諭を対象に郵送法による無記名自記式のアンケート調査を実施した。アンケートでは、年齢と性別、養護教諭としての勤務年数、現在の勤務校における所属年数、生活習慣（喫煙、飲酒、運動）、養護教諭が関わる保健授業の実施状況、授業を行う時に難しさを感じる単元、保健授業に関わる年間のコマ数、研修会や参考になる教材が少ないために困難さを感じる分野について尋ねた。高学年の単元として LGBT 教育とヤングケアラーについても加えた。単元ごとに、授業を行う場合に「とても簡単」「やや簡単」「やや難しい」「とても難しい」「わからない・授業に関わらない」の選択肢から回答を求めた。「兼務発令として保健授業を担当する」あるいは「ティームティーチングで小学校学級担任とチームを組んで指導にあたる」という形式で各学年の保健授業に年間何コマ分関わっているか、回答を求めた（1 コマ 45 分）。研修会や参考になる教材が少ないために困っている単元と授業づくりについて、「困っていない」「困っている」「どちらでもない・授業に関わらない」の選択肢から回答を求めた。平均値の群間比較では一元配置分散分析を行い、群間に有意差が見られた場合の多重比較では Tukey 検定を行った。連続量の相関ではピアソンの相関係数を算出した。両側検定の有意水準 α を 5%とした。統計解析には IBM SPSS Statistics Ver 28 を使用した。本調査は兵庫教育大学「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」による承認を得て実施された（第 2022-22 号）。

【結果】 対象校 742 校のうち 189 校から調査票が返送された（回収率 25.5%）。兵庫県内 41 自治体（市町）を 10 地域別に回収率をみると、公立小学校の淡路地域（30.8%）、北播磨地域（28.8%）と但馬地域（28.8%）、東播磨地域（28.0%）、阪神南地域（27.0%）、丹波地域（25.0%）、神戸地域（23.9%）、阪神北地域（22.9%）、中播磨地域（22.1%）、西播磨地域（19.6%）であった。私立小学校と国立小学校の回収率は 36.4%と 50.0%であった。189 名の性別の内訳は女性 186 名、男性 2 名、回答なし 1 名であった。回答者の平均年齢は 39.6 歳（標準偏差 12.0）、中央値は 38.0 歳であった。

1 年間の平均授業コマ数が多い地域は、神戸地域の 3.2（標準偏差 5.7）、西播磨地域の 2.2（標準偏差 4.0）、私立小・国立小の 1.8（標準偏差 1.5）、但馬地域の 1.6（標準偏差 4.2）であった。地域別に「困っている」人数が最多であった項目をみると、4 年生の単元では発育と発達、二次性徴、5 年生の単元では心の発達、心と体のつながり、不安やなやみへの対処であった。6 年生の単元では飲酒、喫煙、薬物乱用、がん教育、パソコンやタブレット・スマホと健康であり、高学年では LGBT 教育とヤングケアラーであった。

研修の機会や参考になる教材が少ないために「困っている」と回答した授業づくりを地域別にみると、公立小学校 10 地域のうち 9 地域で特別支援的ニーズを持った子どもたちにわかりやすい授業づくりであった。西播磨地域と私立小・国立小で「困っている」人数が最多の項目は学校外の専門家や機関を活用した授業づくりであった。

【考察】 今回の調査時点で、養護教諭の 70.3%が授業に関わっていない現状が明らかになった。神戸地域と西播磨地域の公立小学校、私立・国立小学校では授業の平均コマ数が他よりも多かった。今後の課題として、これらの地域の小学校での取り組みを詳細に調べ、保健授業への参画、養護教諭という人的資源の活用の増加につなげる必要がある。

小学校４年生における未来を肯定的に捉えた体の発育・発達の学習の評価
―養護教諭が関わったWYSH教育の取り組みより―

山田麻美[1)]，西岡伸紀[2)] 岡本希[3)]
[1)] 宝塚市立売布小学校 [2)] 京都女子大学 [3)] 兵庫教育大学

［キーワード］ 発育に対する態度 二次性徴 キャリア教育 WYSH教育

【目的】

体の発育・発達についての様々な研究の中で，小学生の段階から自身の「体の発育・発達」について，少なからず否定的な感情を持つ児童がいることが想定され，青年期の健康問題や不適応行動の出現に関連していることが指摘されている。そこで，本研究では，小学校４年生の「体の発育・発達」の単元に木原（2007）が意識変容や行動変容を促すために開発したWYSH教育の授業モデルを取り入れた。授業モデル，保健学習「二次性徴」と未来を肯定的に捉えるための特別活動「キャリア教育の要素を含む学習」を横断的に実施し，その介入効果を検証することを目的とする。

【方法】

A市内の公立小学校１校の４年生80名（男子34名・女子46名）を対象に2022年12月から2023年１月に担任と養護教諭でT・T指導で介入した。「二次性徴」指導内容は，「おとなとこどもの違いって何だろう」「おとなに近づく体」「体の内側の成長と未来に向かって」の３時間，「キャリア教育の要素を含む学習」指導内容は，「ステキな大人を取材してみよう」「夢宣言　こんな大人になりたいな」の２時間，合計45分×５回である。効果評価のため，発育に対する態度の尺度４因子18項目（石井（2018））とキャリア意識尺度４因子25項目（新見ら（2009））を基に徳岡ら（2010）が作成）ついて４件法により介入前後調査，調査結果から因子分析を行った。その後，因子得点の合計得点を算出し，変化量から介入効果を検討した。

【結果】

1.因子分析と信頼性　「発育に対する態度」尺度は，最尤法・Promax回転法にて因子分析を行い，因子負荷量.394以上４因子17項目を採用した。因子名は，〈他者との比較〉（α＝.810），〈体に関する否定的な感情〉（α＝.799），〈身体受容〉（α＝.794），〈体に対する受け止め〉（α＝.697）と命名した。キャリア意識尺度は，主因子法・バリマックス回転にて因子分析を行い，因子負荷量.400以上４因子18項目を採用した。因子名は，〈将来設計〉（α＝.749），〈人間関係形成〉（α＝.764）〈情報活用・意思決定〉（α＝.703）〈社会形成能力〉（α＝.687）と命名した。

2.介入効果　各尺度の因子得点を従属変数とした時期×群の２要因分散分析を行った。この結果，「発育に対する態度」において，時期と群で交互作用がみられ（p=.025），介入事後の得点が事前の得点より有意に高かった（p=.005）。下位尺度〈体に関する否定的な感情〉において，時期と群で交互作用がみられ（p=.049），介入群の介入事後の得点が事前の得点より有意に低かった（p=.007）。事前調査の得点の高低群別２要因分散分析によると，「発育に対する態度」下位尺度の〈他者との比較〉（p=.008），〈体に関する否定的な感情〉（p=.036）のネガティブな尺度においていずれも交互作用がみられ，介入群高群の介入後得点が，介入前得点よりも有意に低かった。効果の性差をみるために群×時期×性の三要因分散分析を行った。この結果，「キャリア意識」の下位尺度である〈将来設計〉で二次の交互作用がみられ（p=.001），女子において統制群よりも介入群（p=.005），事前よりも事後の方が有意に因子得点の平均値が高かった（p=.046）。

【考察】

本プログラムでは，成長の個人差を重視しつつ科学的に二次性徴を学習し，児童同士の意見交流を重ねたキャリア教育への横断的学習を行った。これにより「発育に対する態度」，下位尺度〈体に関する否定的な感情〉への介入効果が認められ，〈他者との比較〉，〈体に関する否定的な感情〉の体へのネガティブな意識が高い児童の認識への変容が顕著となったと推察される。バンデューラ（1997）によると，他者が何かを達成したり成功したりする様子を観察することは，「これから自分にもできる」という信念を生み出すとしている。身近な大人を取材したり，先輩達の動画を視聴したりすることにより「キャリア意識」では，下位尺度である〈将来設計〉の女子において介入効果が認められた。日本内分泌学会（2023）によると，女子は10歳頃から男子は12歳頃から二次性徴の変化が起きるとされており，小学４年生女子では，すでに変化が起こっている児童が存在すると想定される。よって，女子の方がより自分事と捉え，将来を具体的にイメージして学習に臨んだのではないかと推察される。また，本プログラムに養護教諭が関わることで，身体に対する個別的な相談や悩みにも対応できると考えられる。

A－3

中学校の性に関する指導の実態及び関連意識
―教員と外部講師（助産師）に対する質問紙調査結果の比較―

森本雅子[1)]，西岡伸紀[2)]，岡本希[3)]

1）三木市健康福祉部健康増進課，2）京都女子大学，3）兵庫教育大学

キーワード：性に関する指導，中学校教員，外部講師，助産師

【目的】

厚生労働省によると，20 歳未満の若年者の出産が一定数報告されており，望まない妊娠，育児における虐待等のリスクが懸念される。筆者は外部講師として，中学校での性に関する指導を実施しているが，短時間での指導の限界を実感している。しかし，義務教育最後である中学校での性に関する指導は，必要であると考える。

そこで本研究では，中学校での性に関する指導について，教員と助産師に調査を実施し，学校と外部講師の指導の実態及び意識を明らかにすることを目的とした。

【方法】

関西地方の 4 市 1 町の中学校の教員 270 名，A 県助産師会会員 383 名に対し，2023 年 4 月～6 月に，無記名自記式質問紙調査を実施した。

調査内容は，教員に対しては，属性，性に関する指導の実施状況，外部講師との連携，性に関する指導の効果や影響とした。助産師に対しては，属性，性に関する指導の実施状況，学校との連携，性に関する指導の効果や影響とした。

分析には IBM SPSS 29 を使用し，単純集計とクロス集計，属性や回答結果との関連性の分析を行った。本研究は，兵庫教育大学倫理審査委員会の承認を受けて実施した。（受付番号　2022-51）

【結果】

教員は，19 校 131 名（回収率：48.5%）が回答した。助産師は，31 名（回収率：8.1%）が回答した。

教員の属性について，年齢は 30～39 歳が 54 名（41.2%），経験年数は 6～15 年が 56 名（42.7%）と最多であった。性別は，男性が 66 名（50.4%），女性が 64 名（48.9%），無回答 1 名であった。担当教科は，保健体育科が 37 名（28.2%）と最多であった。

助産師の属性について，年齢は 50 歳以上が 15 名（48.4%），経験年数は 26 年以上が 12 名（38.7%），就業先は助産所が 9 名（29.0%）で最多であった。

性に関する指導の実施について，多く実施されている内容は，教員は，「思春期の心理」24 名，「異性への関わり」21 名，「月経と随伴症状」「妊娠・出産」が各 20 名であった（n=88,複数回答）。助産師は，「妊娠・出産」13 名，「生命の尊重」「月経と随伴症状」が各 12 名であった（n=13,複数回答）。逆に，実施が少ない項目は，教員は「性の相談先」「人工妊娠中絶」が各 3 名，助産師は「デート DV」7 名，「人工妊娠中絶」8 名であった。

学校での指導が難しいと考えた内容について，項目と理由を複数回答で質問した。教員は「性的接触」66 名，「避妊方法」65 名，「人工妊娠中絶」61 名であった（n=91）。助産師は，「性の多様性」11 名，「性的接触」10 名，「性の不安や悩み」9 名であった（n=22）。

難しさの有無を職種別に比較するために，χ^2検定を行った結果，「生命の尊重」(p=.026)，「性感染症」(p=.045)，「デート DV」(p=.019)，「性の多様性」(p=.012)，「異性への関わり」(p=.007)，「性に関する不安や悩み」(p=.024)の 6 項目において，有意に助産師が教員より難しいと感じていた。

性に関する指導の効果と影響について，職種別に比較するために，Mann-Whitney の U 検定を行った。結果，「自分の身体や人の体を労わることができる」(p=.013)，「性を学ぶことで生き方を考えることができる」(p=.010) の 2 項目について，助産師の方が有意に肯定的に捉えていた。

打ち合わせの必要性については，「時間配分」(p=.022)において教員が，「生徒の状況」(p=.015) において助産師が必要であると考えていた。

【考察】

性に関する指導について，保健の教科書に沿う内容が多く，「人工妊娠中絶」等は実施が少なかったが，助産師は多くの項目を実施していた。これは，必ずしも教員の指導困難によるのではなく，専門職としての役割の意識によると考えられ，職種間の役割の違いを認識して実施する必要があると考えられる。

学校と外部講師との打ち合わせは，職種間で重要視する点が一部異なり，共通理解が必要であると考えられた。

A－4

軽度知的障害・発達障害のある特別支援学校高等部生徒における性の個別学習の体験
―学習者の語りを通して―

鶴岡　尚子　東京医療保健大学和歌山看護学部

キーワード　知的障害，特別支援学校，包括的性教育，個別学習

【目的】

近年，国際的にみる性教育は，包括的性教育（comprehensive sexuality education:以下 CSE），すなわち，人権尊重とジェンダー平等を基盤とし，生殖に関することだけでなく，健康，多様性，性暴力の防止，人間関係など幅広く性を学ぶ教育が急速な拡がりをみせている．しかし，知的障害児を対象とした学校における実践や個別学習の報告は依然として少なく，さらに，行為主体である生徒の語りは取り上げられていない．そこで本研究では，特別支援学校に在籍する軽度知的障害・発達障害のある高等部生徒を対象に，性に関する個別学習を行い，生徒たちが個別学習の体験で何をどう感じ,意味づけているのかを明確化し,学びの実相に迫ることを目的とした．指導には，オリジナル教材「パスポート」を用いた．

【方法】

対象としたのは，筆者が以前勤務していた X 特別支援学校に在籍する，軽度知的障害や発達障害のある高等部 3 年生 5 名である．生徒たちには，2023 年 12 月～2024 年 1 月にかけて，一人につき 1 回 30 分程度の個別学習を 2 回実施し，その後，学習を振り返るインタビューを 1 回ずつ行った．インタビューは IC レコーダーで録音し，質的記述的分析を行った．倫理的配慮として，事前に学校長，保護者及び本人に学習内容と研究への参加について説明し，同意を得ている．

パスポートの内容は CSE の視点から作成し，マスターベーションや人工妊娠中絶等の内容を含み，学習ではコンドームの装着練習も行った．

【結果】

５名の生徒たちの逐語録より，性に関する個別学習の体験からキーワードを抽出し，生徒間で比較検討しながら類型化したところ，４つのテーマが抽出された．軽度知的障害や発達障害のある生徒たちは，【学習による言葉や知識の拡充が，学習に肯定的な意味を与える】ことで，【学習を通して将来への備えに対する認識が広がる】という体験をしていた．そして，学習により新たな知識を得ると同時に，【倫理的・法的な複雑性を抱える事象に驚きや当惑を感じる】様子も見られた．また，性に関する学習の形態については，【社会的なラベリングやスティグマを意識して，個別学習を希望する】という体験の様相が明らかとなった．

【考察】

本研究においては以下の点が明らかになった．

１．学習による言葉や知識の拡充が，学習に肯定的な意味を与えた

学習を通じて性に関する新しい言葉や概念を学ぶことで，生徒たちは驚きや感動を体験し，学習に対して肯定的な意味を見出していた．さらに，性に無関心と見られる生徒においても，学習を肯定的に意義づけていたことから，性への関心の程度に関わらず，パスポートを用いた学習が生徒たちに肯定的に受け止められた．

２．学習を通して将来への備えに対する認識が広がる

学習時点での恋愛や性交への関心の有無によらず，将来的な可能性を考慮してパスポートの内容を全て扱い，コンドームの装着練習を行った．それにより，生徒たちが学習の意義を将来に必要な知識やスキルを獲得するためと捉え，将来の性的な体験に備える意識を広げていた．学習は生徒たちに将来への備えとして価値付けられ，単なる知識伝達だけでなく，実用的なスキルや知識の獲得への動機づけにも寄与していた．

３．倫理的・法的な複雑性に対する驚きや当惑

生徒たちは学習の中で中絶や性表現に関する倫理的・法的な側面に触れ，戸惑いや不安を感じていた．学習が生徒たちにとって，内在していた価値観を相対化し，新たな視点や認識を提供する役割を果たしていた．

４．社会的なラベリングやスティグマへの意識

生徒たちは他者がいることで社会的なラベリングやスティグマを意識し，一対一の個別学習を希望していた．そして性に関する個別学習が感情や態度にも影響を与え，性に対する不快感の軽減に寄与していたことが示された．個別学習という形態が，十代の生徒たちの心理的特徴と障害特性に適合し，生徒たちにとって心理的に安心できる形態であったことが示唆された．

以上のことから，パスポートと具体物を用いた個別学習は，生徒たちの性への関心の程度に関係なく，知識の獲得体験や将来への備えとして，肯定的に価値付けられていたことが明らかとなった．

A－5

雑誌『養護』における養護概念に関する検討

高橋裕子 天理大学

キーワード：養護、学校保健史、雑誌養護、虚弱児童、体育

【目的と方法】養護教諭の「養護」の語源は明治期に移入された教育学書の中の Pflege の和訳語であり、教授･訓練（訓育）･養護という教育方法の一つを意味していた。その後、大正 9 年の学校医の職務改正によって、身体検査の事後措置「要監護」(のちに「要養護」)によって、教育学の養護は学校衛生の養護に「結合」したとの杉浦守邦の学説があり[1]、学校保健史の定説ともなっている。ただし、その点を含めて、明治期の教育学の「養護」はいったいどのような系譜を経て現在の学校衛生での「養護」・養護教諭の「養護」に至ったのかという概念史については明らかにされたわけではない[2]。本発表では、専門雑誌『養護』を資料として[3]、その刊行期間 10 年間（昭和 3～12 年）における養護概念と変化を明らかにしてみたい。

【考察】養護の用例を時系列でたどると、一つの変化が確認できる。

①虚弱児(童)の養護が、全期間中、盛んに説かれ、文部省は初期に「養護の徹底」を鼓舞していた。

②昭和9年より明治期の教育学説(教授･訓練･養護)が、改めて紹介されている。

③昭和 12 年、総力戦体制と繋がる養護論が見られる。

①から②への変化については、明治期の教育学の養護学説を紹介する平原不二也(山口県学校衛生技師 医学士)の養護論(「養護とはなんぞや」『学童養護』昭和 9 年 5 月)と龍山義亮(文部省督学官)の養護論(「教育上における養護の意義(上)」『学童養護』昭和 11 年 7 月)の２つに注目される。虚弱児の養護との関連、さらには、この時期になぜ明治期の教育学説が紹介されたのかについて、昭和初期の総力戦体制という時代状況との繋がりを視野に入れて検討してみよう。次の３点が考察できる。

①平原と龍山が踏まえた明治期の養護論(教授･訓練･養護)は、その当初、幼い子どもの健康な発育のための小児保健論を内容としていた。また、明治後期に、社会に生きる個人の育成を教育目標とする社会教育学説の先覚者･吉田熊次の説く養護論も(『社会的教育学』明治 37 年)、広義の体育論であって、特に虚弱児のための養護を意味しなかった。この点で、雑誌『養護』における虚弱児のための養護とは大きな違いがある。

②平原は「教育は完全なる国家意識の下に行はるゝにあらざれば意義なきと等しく、その中にとけこんでいる養護もまた、国家を意識して行はれなければならない」と述べて、「国家意識」を強調し、龍山においては、「養護といふ問題は、身体を健全にするといふことを主眼として考へるのが当然ではあるが、それと同時に精神力を練ってゆく、或は道徳的の一つの力を養成してゆく、謂はゆる人格の養成といふ方面にまで考へを及ぼしてゆかねばならにといふ考へ方が、今日における一つの新しい傾向」と述べて、「道徳」や「人格の養成」にまで養護の意味を拡張していた。この点では、少し後の、総力戦体制を意識する大西永次郎の養護論と同じ立場と言えるだろう(大西「教育としての学校衛生に就て」『学童養護』昭和 12 年 11 月)。この養護論は、やがて、戦時下の強い国家意識のもとで鍛錬と養護を一体として教育を担うとする体育としての養護論の色彩を濃くしていくものである[4]。

【結論】昭和初期の学校衛生の雑誌『養護』では、同じ養護論であっても、明治期の教育学説とは異なる、国家意識に基づく目標・内容の養護論が展開されていた。その点で、明治期の教育学･養護が学校衛生･養護に「結合」し、現在の養護の起源とする見方は検討の余地がある。

1 杉浦『養護教員の歴史』1985 年
2 拙稿「明治後期の教育学説における養護概念」『天理大学学報 体育編』266 輯、2024 年
3 瀧澤･七木田『雑誌 養護/学童養護』復刻版 2014 年
4 拙稿「明治後期の教育学説における養護概念」『天理大学学報 体育編』266 輯、2024 年

A－6

学校における養護教諭の校務の情報化に関する実践的研究

酒井隆子[1)]，佐々木美奈[2)]，島田郁未[3)]

1） 丹波市立青垣中学校　2）横浜市立南台小学校　3）横浜市立下永谷小学校

キーワード（ICT，養護教諭，業務効率，保健日誌，健康観察）

【目的】

現在、養護教諭の校務ではICT化が求められるようになったが(文部科学省，2023)、実際の活用においては養護教諭個人の裁量に委ねられており、専門職かつ一人職であるがゆえに、困り感を抱えやすいことが推察される。そこで、養護教諭のICT化への困り感への一助として、ICT スキルの向上を目的とした現職教員向けの研修会を実施することで、その効果を検証した。

【方法】

養護教諭の日常業務である来室記録(保健日誌)や健康観察を独自にシステム化したExcelデータを作成し、活用例を紹介・共有したのちに、事後アンケートで自由記述式の回答を求めた。得られた回答は文脈に沿って意味のあるまとまりごとに切片化し、１つの文節としてコード化した。また、研修内容の構成では、予備調査として2023年3月に協力を得られた養護教諭17名を対象に、予備的な研修を設け、PCスキルの課題を抽出した。得られた内容を精査し、それをもとに2023年6～7月にGoogle formsにて、本調査の対象者に向けた任意制の無記名式webアンケートを実施した。その結果から、ICTスキルに関して認知度の低かった内容を中心に、本調査での研修内容を構成した。

【結果】

養護教諭17名への予備調査では、PCの基本的操作で認知度が低いことが明らかになった。web アンケートでは認知度の程度を高・中・低の 3 件法で伺い、養護教諭68名から回答を得た。およそ8割以上が「知らない」と回答した機能が「Microsoft IME ユーザー辞書ツールの単語登録(88.2%)」「ショートカットキーの置換(88.2%)」「Excel の vlookup 関数(85.3%)」「Excel の MID 関数(89.7%)」「Word のセクション区切り(79.4%)」であった。本調査では2023年8月に養護教諭105名を対象に研修を行い、事後アンケートをカテゴリ分類した結果、計480のコードが生成された(表1)。

【考察】

養護教諭を対象にした ICT 研修会の実施によって、システム化したデータへの肯定的な意見や、今後の活用に対する意欲的な回答が多く得られたため、困り感の軽減に一定の効果があったと考える。大川ら(2023)の調査でも「養護教諭のICT活用力は経験によって高めることができる」ことが示されており、研修後に実践することで、一層の効果がもたらされると考えられる。

表１　事後アンケートのカテゴリ分類の結果　　※(　)内は累計コード数

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー	具体的なコード(代表的な記述)
校務の実態(91)	課題(71)	困惑感(9)	日々の業務時間をもう少し効率化できたらと思っていた 健康診断で担任から「もっと合理的にならないか…」と言われた
		負担感(13)	来室記録や健康観察等、それぞれについてデータを入力し、どれにも反映しない状態の資料を作成していることが日常だった
		多忙感(8)	健康診断で忙しくなり、いつの間にか来室記録だけが山積みになり、挫折を繰り返していた
		ICTへの苦手意識(10)	ICTと聞くと苦手意識があり、なかなか取り入れられずにいた
		既存システムの課題(12)	既存の校務システムだと二度手間・過去の情報が見られない・グラフ化や種別化が出来ない等不具合がある
		その他(9)	長い育休の復帰後、ICT 化が進んで状況が様変わりしていた
	試行錯誤(20)	成果(10)	自校でもExcelで自作の来室記録を日常的に使用している
		課題(5)	知識がないまま Excel で関数を試してみるとエラーになることが多かった
		手書き(5)	校務システムは使い勝手がよくないので、欠席調べも来室記録も手書きしている
研修内容(216)	教示方法(32)	肯定的見解(12)	実際のやり方を動画で見せていただけて良かった 映像だと分かりやすかった
		課題・要望(17)	実際に参加者が各自のPCを使いながら一緒に作業できると良かった
		その他(3)	PCスキルは人によって差があるので、教える側も大変だなと思った
	システムの肯定的意見(159)	汎用性・活用性(54)	保健日誌、出欠の記録、保健室利用状況、感染症報告、様々な事務処理にひとつの入力が反映される方法があるということを知ることができて驚いた
		効率性・利便性(18)	職務改善や働き方改革にも繋がる素晴らしい内容だった
		具体的な機能(38)	保健室登校、不登校等の把握や、グラフ化や集計も簡単に出来て良い
		気づき・新たな知見(35)	手間のかかる方法でしか業務を行えていなかった 早くに学んでおけば良かった
		ICT の必要性(14)	養護教諭の負担減のためにICT の活用は必須だと感じる
	システムの否定的意見(35)	ICTの導入障壁(15)	自分の知識のなさと難しい内容で頭が追い付いていかないと思った
		ICT の不安感(20)	学校で一人で出来る自信がない 研修が今回限りだと複雑で活用できそうにない
今後の展望(172)	関心・意欲(134)	積極的な活用(121)	今回のデータを配布してもらえたらすぐに使いたい 早速やってみたい
		具体的な機能(13)	まずは置換(Ctrl+H)からやってみたい ショートカットキーも使いこなしたい
	保健室経営(39)	業務改善・生徒対応(14)	事務作業の効率化からゆとりを生み、児童と向き合う時間を大切にしたい
		情報共有・協力体制(11)	ICT 支援員さんとも相談したい 職場の若い力を借りてやっていきたい
		問題点(14)	一長一短があるので ICT 化をして良い範囲とそうでない所に注意が必要だと思う

A－7

学校の自殺対策におけるSCやSSWとの協働ネットワークの機能化

細川愛美[1)]，三木澄代[2)]，目久田純一[3)]，服部紀代[4)]
1）神戸女子大学　2）関西福祉大学　3）梅花女子大学　4）兵庫大学

キーワード： 子供の自殺対策　スクールカウンセラー　スクールソーシャルワーカー　教職員

【目的】

令和 5 年 2 月に文部科学省は「児童生徒の自殺対策」に関する通知を行った。子供の自殺対策では教職員はゲートキーパー（以下，GK と略す）の役割が求められているが，取組や研修内容に関する研究成果の蓄積は十分とは言えない。小髙ら（2022）が自殺予防のための GK に求められる資質能力を明らかにするも，教職員への研修内容や実施形態は多様で，共通した研修体制の構築には至っていない。そこで本研究では，教職員が子供の自殺対策の GK として機能するために必要な研修体制の構築を目指し，GK に求められる姿勢や自殺対策を進める困難感の構造を明らかにすることを目的とする。

【方法】

2022 年 12 月～2023 年 3 月に，近畿地方の公立学校に勤務する教職員，スクールカウンセラー（以下，SC と略す），スクールソーシャルワーカー（以下，SSW と略す）を対象に半構造化面接を行った。面接内容は，①高校生の自殺リスク要因の特徴を示す児童生徒とのかかわり，②かかわりの中で上手くいったことの 2 点とした。分析は，面接内容を録音し，逐語録を作成し，SCAT を用いて行った。

倫理的配慮は，調査協力同意後の辞退可や個人情報の取り扱い等を口頭及び書面にて説明した。

【結果】

本発表は，SC と SSW の結果を報告する。調査対象者は SC16 名と SSW13 名で，面接は 2 名もしくは 3 名の調査協力者と 1 名の調査者の集団形式で行った。本研究の条件を満たした分析対象者の属性は，SC13 名（男性 5 名，女性 8 名，平均年齢 48.77 歳）と SSW13 名（男性 1 名，女性 12 名，平均年齢 49.31 歳）であった。

SC と SSW の共通点は，両者の業務内容の明確な差異や学校における認知度を含む存在感が語られた。SC は，「希死念慮を抱く子供への学校における支援方針」「連携を容易にする学校内のキーマンの存在」「教職員の援助希求」「子供が弱音を吐けることの大切さ」等，教職員の姿勢や自殺対策の困難感をあげた。SSW は，「学校における SSW のアセスメントと介入の専門性」「学校と関係機関の連携の重要性」「希死念慮や自殺企図のサインに気付ける体制」「教職員の迅速な介入の大切さ」「校内外の連携が図られたチーム対応の必要性」の学校の協働的な支援体制を主にあげ，子供への教職員のかかわり方が次に多かった。SCAT の分析については学会で発表する。

【考察】

自殺対策には多重かつ手厚い対策が必要であるため，教職員の GK の機能化は教職員個々の資質能力に対する研修に加え，協働する組織風土や心のケアに焦点を当てた危機管理体制の構築の重要性が明らかになった。

＊本研究は革新的自殺研究推進プログラムの課題番号 JPSCIRS20220107 の研究委託を受けて実施された。

＊本研究は藤原他（2023）が日本安全教育学会第 24 回大会で発表したデータに再分析を施したものである。

A－8

特別養子の保護者に対するペアレント・トレーニングの実践
～学校生活に関連する保護者の語り～

古川恵美[1)2)]、石崎優子[3)]、池田友美[4)]、中村恵[5)]
1）兵庫県立大学　2）畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター　3）関西医科大学
4）摂南大学　2）畿央大学

キーワード：特別養子、特別養子縁組、ペアレント・トレーニング、保護者

【目的】

神経発達症の治療・支援には多面的なアプローチが必要であり、ペアレント・トレーニング（以下PT）は、心理社会的治療のなかでも、幼児期、学齢期において国際的に推奨されているプログラムである。子どもの行動に焦点を当て、子どもの好ましい行動を増やすためのほめ方等の行動理論の技法を具体的に学んでいくものである。子どもの適切な行動の増加と問題行動の減少に効果があるとともに、保護者が自信を回復し、良好な親子関係が形成されることを目指している。今回、特別養子及び特別養子縁組家庭に対する教職員の支援方法を検討するために、特別養子縁組家庭の保護者を対象としたPTにおいて子どもの行動を分析する中で語られた、学校生活に関連した内容を明らかにすることを目的とする。

【方法】

実施方法：日本ペアレント・トレーニング研究会の基本プラットホームに養親用に特化した内容を加え開発した養親プログラム（表１）に参加した小学生の子どもの養親２人を対象とした。プログラムには、養親の担当ソーシャルワーカーも参加した。

分析方法：各回における保護者の発言やホームワーク部分の学校生活に関連した内容について抜粋した。

【倫理的配慮】

本研究は、畿央大学研究倫理委員会の承認を得た（承認番号：H30-14）。

本研究はJSPS科研費JP18H01001の助成を受けた。

【結果】

1. 養子であることを学校に伝えたくない（Aさん）
　小学校では神経発達症と診断されていることから、本人の特性に合わせた支援を受けているが、養子であることは伝えていない。いわゆる「生い立ちの授業」においても、乳児院で撮影したことがわからない写真を持たせた。本人に養子であることを幼少期に伝えているが、現在理解しているかどうかわからないが、学校生活がうまくいっていない（不登校傾向）現時点で「真実告知」は難しいと考えていた。
2. 養子であることを周囲に知らせたくない（Bさん）
　友達と喧嘩をしてけがをした際に子どもと血液型の話になり困った。また、他の親と仲良くなると、その親より高齢であることがわかってしまうかもしれないから親しくならないように配慮していた。

【考察】

教員には、神経発達症あるいはその疑いとして対応してもらうことを期待していた。また子どもが学校で安定した生活ができていない時期に「真実告知」が重なると精神的負担が大きいことが予想された。

表1　養親ペアレント・トレーニング　各回の内容

第1回：オリエンテーション、スタッフ紹介、自己紹介、養子縁組家庭を対象としたペアレント・トレーニングとは、自分の頑張りに気づこう、子どもの良いところをほめよう

第2回：子どもを観察しよう、子どもの行動を３つのタイプに分ける、親自身もグループのメンバーからほめられる体験をしよう

第3回：子どもの行動の仕組みを知ろう、子どもの行動のABCを知ろう、試し行動との違いについて考えよう

第4回：環境調整をしよう、親が環境を整えて、子どもの行動のABCを考えよう、楽しくほめよう

第5回　：達成しやすい指示を知ろう、指示の出し方、CCQ（Calm、Close、Quiet）を使おう、：親自身が穏やかに、子どもに近づいて、静かな声で指示を出すテクニック、予告→CCQ→ほめて終了

第6回：スペシャルタイム（親子タイム）を知ろう、スペシャルタイムで、たくさんほめよう

第7回：子どもに気づいてほしい「親がしてほしくない行動」を考えよう、してほしくない子どもの行動について注目を外し、良い行動が出るのを待ってみよう

第8回：３つに分けた行動の連続性

B－1

小学校高学年児童における食生活リテラシーの機能と要因

○浅沼徹[1)]，原口由子[2)]，星澤玲於奈[3)]

1)京都教育大学　2)木津川市立相楽小学校　3)京都教育大学大学院連合教職実践研究科

キーワード：高学年、食生活リテラシー、食習慣、家庭での食事の関わり、ソーシャルサポート

【目的】

小学生期における食習慣の形成には、食事の手伝い、食事中の家族の様子といった家庭での食事への関わりが関連することが示されている。他方で、小学生の食習慣に心理社会的要因がどのように関連しているか明らかにされていない。

好ましい食習慣の形成にかかわる心理社会的要因として、大学生を中心に「食生活リテラシー」概念を用いて検討が進められているものの、小学校高学年児童を対象とした実証検討は皆無である。加えて、小学校高学年児童の食生活リテラシーの形成にどのような要因が関連するか全く検討されていない。

そこで本研究では、小学校高学年児童における食習慣と食生活リテラシーとの関連を明らかにするとともに、食生活リテラシーの関連要因を、家庭での食事への関わりの状況、ソーシャルサポート、規範意識を取り上げて検討した。

【方法】

機縁法により選ばれた関西地方A府内の公立小学校2校に在籍する第5･6学年児童を対象に無記名自記式質問紙調査を実施した。調査を実施した256名のうち､調査票を回収した者は231名(回収率90.2%)であり、有効回答数は177部（有効回答率76.6%）であった。質問項目は、①属性、②食習慣(11 項目)、③食生活リテラシー尺度（改訂5項目)、④家庭での食事への関わり(3項目)、⑤ソーシャルサポート(保護者・先生・友人)、⑥規範意識(地域・学校・家庭・友人)の6つに関する内容で構成した。

分析は以下の手順で実施した。まず、食習慣の状況を明らかにするために単純集計を行った。次に、食習慣の良好さと食生活リテラシーとの関連について検討するために、各合計得点間のPearsonの積率相関分析及び性・学年を調整変数とした偏相関分析を実施した。最後に、食生活リテラシーの関連要因を明らかにするために、規範意識、ソーシャルサポート、家庭での食事への関わり状況、及び属性を独立変数とし、食生活リテラシー得点を従属変数とする重回帰分析を行った。

【結果】

分析対象者の属性は、性別内訳が男子 80 名（45.2%)、女子 93 名（52.5%)、答えたくない 4 名（2.3%）であり、学年内訳は5年生82名（46.3%）6年生95名（53.7%）であった。野菜や果物の育成・収穫経験がある者は118名（66.7%）であった。

まず食習慣の良好さと食生活リテラシーとの関連性について､Pearsonの積率相関分析及び性･学年を調整した偏相関分析を行った結果、いずれも有意な正の相関が認められた。

次に、重回帰分析の結果、先生からのサポートを多く得ていること、食事への関わりについてお使いをしたり保護者と一緒に買い物に行く頻度が高いこと、学年が高いことが食生活リテラシーの高さと単独で有意な関連を認めた。

【考察】

本対象者において、食習慣の良好さと食生活リテラシーの高さとの関連は、大学生における知見と類似しており、したがって小学校高学年児童においても食生活リテラシーを高めることにより好ましい食習慣を形成できることが示された。

次に、関連要因について考察する。まず先生からのサポートについては、児童に対する情緒的・手段的なサポートによって、小学校での食育という直接的な食に関する指導のみならず、情緒的・手段的なサポートを提供することが、児童の食生活リテラシーの向上につながることが考えられた。

また、子どもが食事に関してお使いに行ったり、保護者と食事について話をしながら買い物を手伝ったりすることで、家庭の食事に子どもの意思決定を反映することができることから、食生活リテラシーの形成が促されるものと推察された。

最後に、学校での保健教育、家庭科教育や学校給食などを通して、学年が上がるほど食生活リテラシーの向上が見込めることが推察された。今後も、食生活リテラシー育成に寄与する保健教育教材の開発に向けて、形成要因に関する検討を進める。

B－2

市販の体組成計で測定した小・中学生の体組成結果の有用性について

中村晴信 1)，小原久未子 1)，間瀬知紀 2)，桃井克将 2)，藤田裕規 3)，甲田勝康 1)
1）関西医科大学大学，2）京都女子大学，3）近畿大学

キーワード：体格，体組成，小・中学生

【目的】学校現場で用いられている肥満度や body mass index（BMI）は身長と体重から算出され，肥満ややせを判定する簡便な指標として広く用いられている。しかしながら，体重は身体全体の質量を表すものであり，肥満度や BMI は身長に対する質量の比であるため，必ずしも身体組成，すなわち筋，脂肪，骨などの体組成成分に関する情報を提供するものではない。筋肉量の不足はサルコペニアのリスクを高め，骨量の不足は骨粗鬆症のリスクを高める。また，過剰な体脂肪は，単に肥満となるだけではなく，心血管疾患やその他の疾患のリスクとなり得る。さらに，BMI が正常範囲内であっても，体脂肪率が高いと，代謝異常，メタボリックシンドローム，冠動脈性心疾患と関連することが報告されている。したがって，体組成が適切に形成されていることは生涯の健康にとって重要であり，そのために体組成の情報を得ることは生涯の健康保持にとって有用である。また，体組成情報を簡易に得ることができれば，それらの情報は個人の健康管理に役立つツールとなる。体組成を測定する手段としては二重エネルギーX 線吸収測定法（dual energy x-ray absorptiometry，DXA）があり，DXA 法をゴールデンスタンダートと位置付けている報告も多い。しかしながら，X 線を使用することや，装置のコスト，操作手順等の問題から，病院等での測定に限定されることが多く，日常の健康管理には必ずしも適していない。一方，体組成測定に生体電気インピーダンス法（bioelectrical impedance analysis，BIA）も用いられるようになった。BIA は安価であり，測定も簡便であることから，日常の健康管理のために利用しやすい。しかしながら，その測定精度が問題視されてきた。一方で BIA の測定精度も向上していることから，本研究では，市販の体組成計による測定結果を DXA による測定結果と比較することにより，その有用性を検討した。

尚，本発表内容および図表は，発表者らが著者として発表した掲載済論文[1]に基づいたものであり，図表等も当該論文[1]から引用した。

【方法】兵庫県淡路市東岩地区に存する 4 小学校の 5・6 年生 206 名(男子 108 名，女子 98 名)と 2 中学校の 1・2 年生 237 名（男子 108 名，女子 119 名）を対象者とした。対象者の身長，体重，体組成を測定した。体組成は，単一周波数による生体電気インピーダンス法の体組成測定機器（BC-622，タニタ）および DXA 法測定装置（QDR-4500A, Hologic）を用いて測定した。

【結果】体組成の測定結果は，2 つの測定システム間で強い関係性を示した。また，脂肪量および除脂肪量の測定結果の一致性は良好であった。一方で，BIA は骨塩量を過大評価し，体脂肪率を過小評価した。

【結論】生体電気インピーダンス法による体組成の測定結果と DXA 法による体組成の測定結果との間には強い関係性が認められた。一方で，測定結果の一致性については一部の指標のみに限定されていた。この結果から，生体電気インピーダンス分析は，いくつかの体組成の指標について，二重エネルギーX 線吸収測定法と全く同じ値を提供することはできないが，日々の健康管理やモニタリングのために個人内で縦断的に使用するのに十分な測定性能を有することが示唆された。

【参考文献】

[1] Ohara K, et al. Similarities and discrepancies between commercially available bioelectrical impedance analysis system and dual-energy X-ray absorptiometry for body composition assessment in 10-14-year-old children. Sci Rep 13(1):17420, 2023

【利益相反】本発表に関連して，共同演者を含め開示すべき利益相反に該当する項目はない。

B－3

起立性調節障害のある児童生徒の学校生活に関する文献検討

木原彩子[1)]，谷田恵子[2)]，古川恵美[2)]
1)兵庫県立大学看護学研究科博士前期課程　2)兵庫県立大学

起立性調節障害　学校　児童生徒　支援　不登校

【背景・目的】

社会環境や生活様式の変化は児童生徒の心身の健康に大きな影響を与え、心身の健康課題は複雑化・多様化している。近年、心身の健康課題の 1 つとして起立性調節障害（以下 OD）が注目されており、早急な対応が求められている。そのため、国内の先行研究の文献検討を行い、支援の内容を明らかにすることとした。

【方法】

論文の検索には、医学中央雑誌 WEB 版および CiNii Research を使用した。キーワードは、“起立性調節障害” and “学校” とし、小児（6～12）青年（13～18）で絞り込みをした。小児起立性調節障害診断・治療ガイドライン（第 2 版）が発行された 2015 年～2024 年 4 月までの文献を対象として、研究論文を中心に検索した。検索結果は医学中央雑誌 web 版で 99 件と CiNii Research で 23 件であった（2024 年 5 月 1 日時点）。一次スクリーニングにより 108 件が残り、2 次スクリーニングの結果、7 文献（表 1）を分析対象とした。

【結果】

1. OD の身体症状に対する支援

体調不良時には保健室を活用するなど一時的に休養をとることで、その後の授業に参加することができていた。体調不良時の配慮や体調に合わせた登校時間、居場所をともに探していくなど柔軟な対応が必要とされていた。1）2）4）

2. 心理・社会的要因に対する支援

OD のある児童生徒の多くが登校に何らかの困難を抱え、学校での適応に課題を持っていた。教師や周囲の病態への理解度の低さや不適切な対応は症状の増悪にも繋がっていた。また、神経発達症を併存している場合もあり、個々の特性を理解した上で環境調整を行い、症状と付き合いながら児童生徒の社会生活に適応する能力を向上させていくことが求められていた。3）6）

3. 不登校傾向にある OD の児童生徒に対する支援

学校を欠席中には「勉強の遅れ」を最も不安に思い、学年が高くなるごとに欠席日数や進級、教師からの評価を不安に感じる傾向があった。欠席中の教師からの連絡は保護者、児童生徒ともに希望する回答が多かったが、連絡頻度は保護者が週 1 回、児童生徒が週 1～3 回を希望する割合が高かった。学校からの連絡は安心を得られる反面、保護者や児童生徒にプレッシャーを与えることもあり、連絡方法、頻度、周囲への働きかけについては保護者や児童生徒とよく相談して決めていくことが重要であった。5）7）

4. 学校の支援体制

教師との信頼関係や教育現場への期待度の喪失は不登校の長期化とも関わっており、校長、担任、養護教諭、各教科担当などの学校関係者やクラスメイトが OD に対する正しい知識と理解を持つことが大切で、OD のある児童生徒が充実した学校生活を送るためには、円滑な医療機関との連携が欠かせなかった。1）2）

【考察】

OD は身体疾患でありながら背景要因も多岐にわたる。さらに、教師との信頼関係や勉強の遅れ、周囲の理解や受け入れ体制等の環境が登校に影響を与えており、医療と教育の両方の側面からの支援が求められている。OD のある児童生徒が疾患と長期に向き合いながら学校生活を過ごすためには、心身の両方からアプローチできる学校保健関係者が担う役割が大きいと示唆された。

表 1　分析に使用した論文一覧

ID	論文タイトル
1）	小児の心身症診療の実際　不登校を伴う起立性調節障害児への対応
2）	COVID-19 感染流行下における起立性調節障害患者の問題点と当院での取り組み
3）	起立性調節障害チェックリストを利用したアンケートによる、中学生の症状・経過についての 10 年間のまとめ
4）	小学校の通常の学級における病気による長期欠席児童の傾向　心身症・精神疾患を有する児童に着目して
5）	起立性調節障害診療における学校連携に関するアンケート調査
6）	起立性調節障害患者の背景因子についての検討
7）	起立性調節障害児の教育現場に対するニーズ調査

B－4

コロナ時代における思春期のメンタルヘルスに関する国内の研究動向

川勝佐希[1)]
1）関西福祉大学

キーワード　コロナ禍，アフターコロナ，思春期，メンタルヘルス

【目的】

思春期は心身が急速に発育・発達し，心理状態も不安定に陥りやすい。精神疾患は 10 代から発症することが明らかとなっており（Lee et al.,2014），子どものメンタルヘルスは，国内外問わず長らく問題視されてきている。

また 2020 年に発生した新型コロナウイルス感染症の流行は，国際的に多大な影響を及ぼし，社会・経済活動に留まらず，子どもたちが過ごす学校生活も例外とはならなかった。コロナ禍には小中高生の自殺者数が増加し，その背景には精神疾患やうつ病の影響があることが報告された（文科省，2021）。

現在はアフターコロナと呼ばれる時代となったが，コロナ禍以前より問題視されていたメンタルヘルスに関する問題は，より一層複雑化していることが考えられる。

一方で，内閣府はコロナ禍の 2021 年に「Well-being に関する関係府省庁連絡会議」を設置し，国内で改めて Well-being が注目されている。さらにコロナ禍といった困難な環境・状況においてストレスを対処することが注目されたことにより，ストレス対処力と呼ばれる首尾一貫感覚（sense of coherence）やその近似概念であるレジリエンスなどのポジティブ心理学の概念も改めて注目されているが，思春期の子どもを対象とした国内の実態は十分に明らかとなっていない。

以上より本研究は，新型コロナ発生からコロナ禍および新型コロナ収束後（アフターコロナ）の思春期の子どもたちのメンタルヘルスに関する実態を明らかにするため，文献検討により国内の研究動向を概観した。

【方法】

論文検索は 2024 年 4～5 月に実施した。文献検索には CiNii を利用した。検索条件は，期間を 2020 年から 2024 年現在までとした。キーワードは，コロナ禍に関して「コロナ禍」「ポストコロナ」「アフターコロナ」と設定した。また，メンタルヘルスは「メンタルヘルス」に加えて「抑うつ」「不安」「ウェルビーイング」「首尾一貫感覚」「レジリエンス」とした。さらに，思春期の子どもに関するキーワードを「子ども」「児童」「生徒」「学齢期」「思春期」とし，これらを組み合わせ検索した。

【結果】

CiNii において前述のキーワードを検索した結果，127 件がヒットした。そのうち，論文は 90 件であった。またタイトルの重複や調査対象が児童生徒ではない報告等，今回の分析対象の条件に該当しない報告，オープンアクセス不可の報告は除外し，分析対象は 6 件となった。

コロナ禍を調査期間とした報告は 6 件であり，アフターコロナを対象とした調査報告は 0 件だった。

また調査対象となっているメンタルヘルスは抑うつ・不安・自殺に関する報告が 5 件，自尊感情に関する報告が 1 件であり，well-being やストレス対処に関する報告は 0 件であった。

【考察】

コロナ禍以降の子どものメンタルヘルスは，コロナ禍の期間を対象とした調査報告が随時なされていることが明らかとなった。一方で，メンタルヘルスに関する報告は抑うつなどにとどまっていることが明らかとなった。

B－5

女子大学生の援助希求能力と阻害要因

市ノ瀬菜々[1)]，井上文夫[2)]
1）明石市立大久保小学校　2）京都女子大学心理共生学部

キーワード：援助希求能力、インターネット依存、社会性、自己肯定感、阻害要因

【目的】困ったときに誰かに助けを求めるかどうかは、本人が自由に選択することであり、必要以上の助けを求める必要もない。しかし、持続する悩みは、時にうつ病や自殺などの深刻な問題につながることもある。本研究は援助を求めないあるいは求めることができない人たちの実態について把握し、それらに当てはまる対象者に向けたアプローチ方法と援助希求能力を育成するための方策について考察することを目的とした。

【方法】18 歳～22 歳の女子大学生を対象に、2023 年 10 月上旬～11 月下旬に、Google フォームで作成した質問紙調査を行い、117 名から有効回答を得た。

質問項目は、援助希求、インターネット依存度、社会性、自己肯定感に関する質問から構成された。インターネット依存度は Young の Internet Addiction Test（IAT）、社会性は菊池の KiSS-18、自己肯定感はローゼンバーグの自尊感情尺度の日本語版を使用した。

【結果】普段、悩みを相談することが多い（とても多い・どちらかといえば多い）と回答した者が 53.8%であり、少ない（とても少ない・どちらかといえば少ない）と回答した者が 46.1%であった。少ないと回答した対象に、その理由を尋ねたところ、相談相手に負担をかけたくない（56.4%）、人に弱みを見せたくない（40.0%）、諦めている（20.0%）、頼める人がいない（10.9%）、助けてもらうのが恥ずかしい（10.9%）と続いた。悩みを相談することに抵抗があると回答した者が合計で 52.1%であり、悩み事があるとき自己解決したいと思うと回答した者が 81.2%であった。

自己肯定感、社会性、インターネット依存度について、相談頻度間で一元配置分散分析と多重比較をおこなった。インターネット依存度において有意差が見られ、相談頻度が「とても多い」と「少ない」の間に有意差が見られた。また、自己肯定感と社会性においては相談頻度間で有意差は見られなかった。相談抵抗感の間での比較では、インターネット依存度との間には関連は見られなかったが、自己肯定感と社会性では有意差が見られ、自己肯定感や社会性が高い者では相談することに対する抵抗感は低い結果となった。

【考察】本研究では、社会性が低い者は、相談することに対する抵抗感が高く、悩み事があったときに自己解決をしたがる傾向にあり、援助希求能力が低いと考えられた。その理由として、他者とのコミュニケーションが上手くいかない場合、相談相手を探すことに労力を費やさなければならず、そのことが負担になると考えられ、援助要請のプロセスで、潜在的援助者の探求の段階で困難を抱える可能性が高いと考えられた。また、相談という行為にたどり着いたとしても、社会性の低さから要請の評価の段階で失敗に終わる可能性も考えられた。勇気を出して相談したにもかかわらず、上手く話すことができず、さらに問題が深刻になった場合、さらなる援助希求能力の低下を招くことが推測される。従って、援助希求に対する抵抗感を除く上で、援助者の適切な対応は重要と考えられた。

【文献】永井智：大学生における援助要請意図 教育心理学研究 58 (1), 46-56, 2010

大学生における合理的配慮提供による効果の検討

嶺　哲也[1)]，竹端　佑介[2)]
1）京都橘大学　2）摂南大学

キーワード：合理的配慮，大学生，障害

【目的】

大学・短期大学・専門学校を含む高等教育において，2022 年 5 月時点での障害学生数は 49,672 人（全学生数の 1.53%）に上り，その数は右肩上がりに増加している。そして，障害者差別解消法の改定により，2024 年 4 月以降，私立大学を含むすべての事業者において，合理的配慮の提供が義務化された。このように，障害学生に対する合理的配慮の提供は全国の大学において重要な取り組みであり，それらが障害学生にどのようなベネフィットをもたらすかについて検討する必要があるであろう。しかしながら，発達障害学生への支援について客観的に評価した研究（佐々木・青木・五味・竹田，2018）や，授業担当教員が直面する課題についての質的研究（松瀬・坂本・松瀬，2018）があるものの，合理的配慮の提供が持つ効果について数量的に検証した研究は見られない。

本研究では，私立 A 大学において合理的配慮の提供を受けた障害学生を対象に調査を行い，合理的配慮の提供が授業の満足度に及ぼす効果について検証する。

【方法】

対象者・調査方法・調査期間

私立A大学において合理的配慮を受ける学生の内の 11 名を対象に，障害学生支援担当者である著者が質問紙調査を行った。調査期間は 2024 年 3 月から 2024 年 4 月であった。

調査項目

1）デモグラフィック・データ（性別・年齢），2）合理的配慮の相談に至る経緯，3）障害の種別，4），合理的配慮の内容，5）2023 年度後期履修科目数，2023 年度後期履修科目のうち合理的配慮を受けたと思う科目数，6）障害による修学上の課題の困難さ：就学支援の効果に関するアンケート（佐々木他，2018）を用いた。 調査協力者に障害による就学上の課題について，どの程度困っているかを 6 件法で尋ねた。得点が高いほど修学上の困難感が高いことを示す。7）各履修科目において合理的配慮を受けられたと感じた程度（7 件法）およびその各履修科目の満足度（7 件法）。

本研究は，摂南大学「人を対象とする研究倫理審査」を受け，承認を得た。

【結果】

障害による修学上の課題の困難さ，合理的配慮を受けられたと感じる程度，授業の満足度の順位相関係数を求めた。分析の結果，各履修科目において合理的配慮を受けられたと感じた程度は，各履修科目の満足度との間に有意な正の相関（$r = .61$, $p < .05$）を示した。また，障害による修学上の課題による困難感は，各履修科目の満足度との間に有意な負の相関（$r = -.73$, $p < .01$）。以上の結果から，障害による修学上の課題を抱えている学生は授業の満足度が低く，また合理的配慮を受けられたと感じるほど，授業の満足度が高いことが示唆された。

【考察】

障害により修学上の課題を抱える学生は，修学意欲が高くとも思うように力を発揮できず，授業の満足度が低くなる可能性がある。そのため，合理的配慮を提供し学生にとっての社会的障壁を除去することでより良い修学につながり，授業の満足度が高くなるものと考えらえる。本研究の対象者は何らかの障害を持つ学生 11 名であったため，サンプルが少ないことや，障害別の検証ができていないこと，障害を持たない学生との比較などができていないことなどが今後の課題として挙げられる。

【引用】

日本学生支援機構 (2023). 障害のある学生の実態調査 2024 年 5 月 15 日 from https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_syugaku/__icsFiles/afieldfile/2023/09/13/2022_houkoku3.pdf

佐々木銀河・青木真純・五味洋一・竹田一則 (2018). 発達障害学生支援にける学生自身による効果評価の試み　障害科学研究, 42, 247-256.

松瀬留美子・坂本剛・松瀬喜治 (2018). ASD 学生への合理的配慮とその学生にかかわる教員が直面する課題――小規模私立大学を中心に――　自閉症スペクトラム研究, 16, 57-66.

B－7

大学生の対人場面における主観的な身体感覚反応と抑うつについて

○竹端佑介[1)]，高山昌子[2)]，後和美朝[1)]
1) 摂南大学，2) 大阪国際大学

キーワード：対人恐怖心性，ふれ合い恐怖心性，思春期・青年期，心身反応

【目的】

他者との関わりに対する極度の不安が生じる場合を対人恐怖症という。特に思春期青年期の一般の健常な若者にも多くみられており，この場合「対人恐怖的心性」（永井,1994）として捉えられている。一方で，「対人恐怖的心性」と似た「ふれ合い恐怖心性」（岡田,2002）の特徴を示す大学生が多くいることも指摘されている。「対人恐怖的心性」や「ふれ合い恐怖心性」の特徴のある若者の心身の状態について検討されている研究は非常に少ない。そこで，一般の健常な大学生を対象に対人場面における情動に伴う身体感覚の反応や精神的健康度の程度を明らかにするために、「対人恐怖心性」や「ふれ合い恐怖心性」それぞれの尺度を用いて検討した。

【方法】

近畿圏内の大学生に対して2024年4月に調査を依頼し，協力の得られた152名の内，149名を分析対象とした。内訳は，149名の内訳として，女性50名，男性97名，性別回答無し2名であった（平均年齢18.57±0.90）。調査方法は，インターネット上の調査フォーム（Microsoft Forms）へ回答するWeb調査を実施した。

質問紙内容として，対人恐怖心性では，永井・岡田（1987）や岡田（1993）で使用された「対人関係尺度」42項目を用いた。本尺度は，「対人状況における行動・態度の諸特徴（問題行動）」・「関係的（他者との関係における）自己意識」「内省的自己意識」の3つの下位因子から構成されている。回答は，「全くあてはまらない」（0）から「非常にあてはまる」（6）の7件法とした。また，「ふれ合い恐怖的心性」では，岡田（2002）による「ふれあい恐怖的心性に関する尺度」の内，「対人退却傾向尺度10項目を用いた。回答は，「全くあてはまらない」（0）から「非常にあてはまる」（6）の7件法とした。さらに，対人場面における情動に伴う主観的な身体感覚の反応については，山口（2013）の「情動身体感覚尺度」14項目を用いた。本尺度は「自律神経の変化の知覚」・「表情の変化の知覚」・「身体の脱力感」の3つの下位因子から構成されている。最後に，精神的健康度については，日本語版 Kessler6の6項目(Furukawa,et.al., 2008)を用いて，抑うつの程度を評価した。本研究は，摂南大学人を対象とする研究倫理審査委員会の承認を得た（2023-091）。

【結果・考察】

1. 対人恐怖的心性とふれ合い恐怖心性の因子分析

伊藤他（2008）にならない，対人恐怖的心性およびふれ合い恐怖心性の尺度の各項目を合わせて探索的因子分析（主因子法，プロマックス回転）を行った結果，4因子を抽出した。伊藤他（2008）では，特にふれ合い恐怖心性の尺度が岡田（2002）とほぼ同様の因子で構成されていたが，本結果では，ふれ合い恐怖心性の中に一部対人恐怖的心性の項目が入り，先行研究と異なった。具体的には，対人恐怖的心性尺度の「対人状況における行動・態度の諸特徴（問題行動）」および「内省的自己意識」の3つ設問項目が新たに加わっていた。これらの設問項目はグループで自身行動や自分自身のネガティブな感情であった。一般青年にみられるふれ合い恐怖心性は「人間関係が深まる場で漠然とした不安を感じ，他者と親しい関係を築くことに困難を生じる，ふれ合い恐怖様の心理的傾向」（伊藤ら,2011）を有しているとされており，今回対人恐怖的心性の尺度の一部がふれあい恐怖心性尺度に加わったことは，ふれあい恐怖心性の特色をより詳細に表すものになっていたのではないかと考える。なお，4因子の信頼性係数（ω係数）は0.91－0.98であった。

2. 対人恐怖的心性とふれあい恐怖心性のグループでの主観的身体感覚反応と抑うつの違い

伊藤他（2008）にならない，対人恐怖的心性およびふれ合い恐怖心性の尺度から対象者を対人恐怖的心性が高い群(n=73)，ふれあい恐怖心性の高い群(n=18)，対人恐怖的心性およびふれ合い恐怖心性のどちらも低い群(n=58)の3群に分類し，対人場面における主観的な身体感覚反応と抑うつの平均値の比較を行った。その結果，情動身体感覚尺度の3つの下位因子とも，対人恐怖的心性の高い群およびふれ合い恐怖心性の高い群は，対人恐怖的心性およびふれ合い恐怖心性のどちらも低い群に比べて有意に得点が高くなり（$p<0.05$），対人恐怖的心性の高い者やふれあい恐怖心性の高い者どちらも対人場面における他者との関わりにおいて，身体の変化を敏感にキャッチしやすいのではないかと考えられた。一方，抑うつについては対人恐怖的心性の高い者のみが対人恐怖的心性もふれあい恐怖心性のどちらも低い群に比べて有意に高くなることが分かった（$p<0.01$）。

B－8

不登校支援におけるボランティア活動の有用性

八木　利津子（桃山学院教育大学）

keyword：大学生・養護教諭・援助技術・教育支援センター

【背景と目的】

2021 年の文部科学省調査によれば、不登校状態を示す者は 244,940 人におよび、その割合は全国児童生徒の 2.0%を占めている。コロナ禍における小・中学校の不登校児童生徒数は増加傾向が顕著であり、児童生徒 1,000 人当たりの不登校児童生徒数は 25.7 人（前年度 20.5 人）と不登校児童生徒数が 9 年連続で増加し過去最多となった。その約 55.0%の不登校児童生徒が 90 日以上欠席しているというデータが示された。この状況は、まさしく重要な今日的教育課題と言えよう。

また 2023 年には「誰一人取り残さない学びの保証に向けた不登校対策」(COCOLO プラン)が文部科学省より打ち出された。その中ですべての不登校児童生徒の学びの場を確保し、不登校児童生徒が増加する中、児童生徒の社会的自立に向けた支援施策のさらなる充実の方向が示された。

そこで、本研究では、教員志望の大学生や不登校支援施設に従事する者が学外でどのような支援活動を行っているのかを捉えて、不登校傾向の児童生徒の対応の現状と課題を調査し、養護教諭養成課程において有用な指導のあり方や援助内容に迫りたい。

【研究方法】

A 市内の B 公立施設指導員 4 名とM大学在籍学生ボランティア 10 名を対象に、不登校支援施設の活動内容など半構造化インタビューを実施する（2023 年 6 月～9 月）。主な質問項目は「対応で苦労した事とその根拠、対応時の留意点、援助（対応）してよかった事等」のヒアリングから援助技術の向上に繋がる現況を把握する。同時に当該不登校支援施設で活動する養護教諭志望学生を対象として、体験活動を通した学びを「教育的要素」「円環的要素」「調整的要素」の 3 観点の援助スキルにカテゴライズして、学生はいずれのスキルを重視しているのか等について活動前後（Pre-Post）に意識調査を行い、状態不安尺度や自尊感情尺度を用いて考察を加える。ヒアリングの内容は、KH コーダーに基づく計量テキストマイニング法を用いて活動後の思考性を分析する。

【結果】

調査結果から指導員は日常的な対応の工夫のみならず、トラブル発生時の対応や家庭への連携など具体的な援助の留意事項や重視すべき視点を示唆した。とりわけ、指導員の 75%は、人間関係や出来事の循環を相互に促す「円環的要素スキル」を最も注視し、対応していることが把握できた。一方、大学生は、児童生徒の調子を整え、規律や今の状態に合せようとする「教育的要素スキル」や「調整的要素スキル」を重んじて対応する思考性が窺えた。状態不安尺度より心理状態の変化を得点化した結果からは、「安心感」、「快適な気分」、「満足度」、「落ち着き」について、いずれも活動後のほうが伸びており、平均値と中央値ともに上回った。特に安心感の変化においては、活動後の散らばり幅が大きく減少して、学生集団全体の安心感の向上が顕著であった。加えて、自尊感情尺度の調査から活動前後で t 検定の結果、明らかな有意差はみられなかったものの、自分に対する満足度や前向きさ等に効果が現れた。

【考察】

3 観点の必要な援助技術において、ボランティア活動中の半数の学生が児童生徒に直接向き合い寄り添おうとする「教育的要素スキル」に注力したのは、活動期間の短さが関与し、今後の展望としては支援施設等で長時間体験を重ねていくと重視する対応に変化がみられると推察する。さらに、状態不安尺度の活動前後の変化からは、安心感や満足度等の向上がみられ、体験的学びを通して援助スキルの習得は期待できる。また、緊張の変化に関しては、経験知に伴い深刻さや真剣さがより増大した結果と考える。

協　賛

ランチョンセミナー協賛
ノボノルディスクファーマ株式会社

協賛金
京都府歯科医師会

広告協賛（申込み順）
株式会社　少年写真新聞社
ノーベルファーマ株式会社
ジャパンライム株式会社
株式会社　健学社
株式会社　日本学校保健研修社

出展協賛（申込み順）
株式会社　少年写真新聞社
株式会社　健学社
株式会社　ワコール
株式会社　東山書房

商品協賛
株式会社　聖護院八ッ橋総本店

新刊

『小学保健ニュース』から生まれた

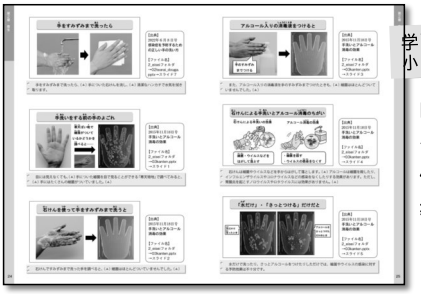
パワーポイント素材集

■B5判／128ページ／カラー／ソフトカバー／DVD−ROM付
■定価2, 530円（本体2, 300円）

先生方からの要望でうまれた一冊

寒天培地での実験結果が収録されているので、汚れが一目瞭然！手洗いの大切さを伝えよう！

『小学保健ニュース』とパワーポイントが夢のコラボ！



学習指導要領 体育・保健領域
小学校3・4年生「健康な生活」

『小学保健ニュース』に掲載した過去10年分のイラストや写真を見直し、データとして使用可能なものを選び、保健指導で使えるパワーポイントにしました。保健実験や性教育、メディア機器の影響、薬物乱用防止教育など、さまざまなテーマをDVD-ROMに収録しています。保健指導の強い味方になること間違いなし！

人気シリーズ最新刊

からだはすごいよ！4

■B5横判／32ページ／カラー／ハードカバー
■各巻定価2, 200円（本体2, 000円）

キラキラげんきな めのひみつ
すみもと ななみ 絵／五十嵐 多恵 監修

てきぱきはたらく ちのひみつ
木村 倫子 絵／弓倉 整 監修

こつこつがんばる わたしのめんえき
櫻井 敦子 絵／清益 功浩 監修

絵本にでてくるキャラクターが、からだのふしぎを教えてくれるので、楽しみながら、からだについて学べるわ！

人気シリーズ第4弾は、GIGAスクール構想推進の中、今最も気になる子どもの「目の視力」の問題、知っているようで知らない「血液」の驚くべきパワー、新型コロナウイルス感染症の流行をめぐって話題となった「免疫」のしくみについて取り上げています。

学校保健安全法に沿った

感染症 −最新改訂16版−

新型コロナも収録！子どもの感染症対策最新の解説書

岡部 信彦 著
■B5判／65ページ／カラー／ソフトカバー
■定価1, 430円（本体1, 300円）

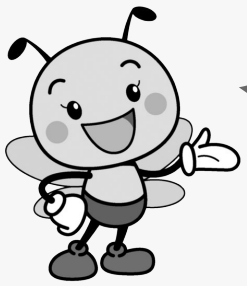
最新の情報をもとに、集団生活の中で子どもがかかる感染症の主な症状や予防法、発生した時の対応法や登校登園の基準を紹介します。

保健指導おたすけ パワーポイントCD-ROM 健康診断編

健康診断の事前指導に最適のパワポ教材集

高田 恵美子 作／池田 蔵人 イラスト
■CD-ROM（1枚）、取り扱い説明書（1枚）
■定価3, 300円（本体3, 000円）

健康診断の事前指導ですぐに使える指導集。視力検査や内科検診など、検査項目別の指導資料に加え、特別支援教育への対応や教職員向けの健診前のチェックリストも収録しています。



少年写真新聞社は今年創業70周年を迎えました

お問い合わせ

少年写真新聞社
https://www.schoolpress.co.jp/
大阪本部
〒541-0041
大阪府大阪市中央区北浜2-3-6
TEL：06-6228-1910
FAX：06-6228-1911

思いをつないで、薬をつくる。

「患者さんの笑顔が見たい。」
たくさんの人のその思いから、
私たちの薬づくりがはじまります。
領域にとらわれることなく、
必要とする人がいる限り。

Nobelpharma
ノーベルファーマ株式会社
ノーベルファーマのフィロソフィー
必要なのに顧みられない医薬品・医療機器の提供を
通して、社会に貢献する

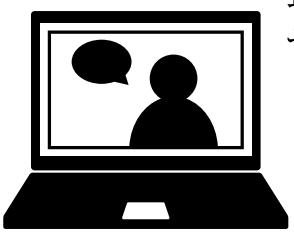
〒104-0033　東京都中央区新川一丁目17番24号 NMF茅場町ビル
https://www.nobelpharma.co.jp
医療関係者向けサイト　NobelPark　https://nobelpark.jp/
製品に関するお問い合わせ　0120-003-140（土・日・祝日、会社休日を除く）

ジャパンライムは養護教諭の現場力向上をサポートします！

オンラインセミナー

JLC セミナー

養護教諭向け
セミナーを毎月開催



オンデマンド配信

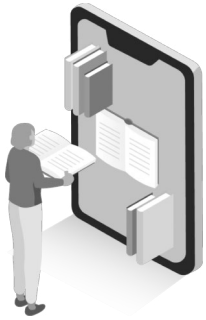
JLC オンデマンド

養護・発達支援コース
毎月定額で見放題

養護教諭応援サイト

養護教諭の現場力

保健室で役立つ
各種情報を発信！



DVD

DVD 通販サイト

DVD のご注文は
こちらから！

JLC
Japan Laim Corporation
めざす未来を映しだす

ジャパンライム株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-2-8
TEL：03-5840-9980　FAX：03-3818-6656
https://www.japanlaim.co.jp/

子どもたちの健康を教育現場から考える

健学社は「心とからだの健康づくりを通して豊かな人間形成と社会に貢献する」をモットーに、学校保健・学校給食関連の掲示用壁新聞・書籍・教材等をお届けしている出版社です。

株式会社 健学社
〒102-0071 東京都千代田区富士見 1-5-8 大新京ビル
TEL：03-3222-0557 ／ FAX：03-3262-2615

特集

■ パワーポイントのテクニック

■ 小児睡眠専門医による
睡眠のほんとのはなし

人気連載

■ 動画による 救急処置解説
■ アレンジして使える 文書作成
■ 大人気 養護実践アイデア集
■ 学校医 たけしの部屋
■ 保健室の 整理収納 など

購読者の先生限定 ダウンロードして使える素材集

■ 切り取ってそのまま使える 大判カラーポスター
■ ダウンロード素材・作り方解説つき 掲示物
■ 新年度から一部カラー化 ほけんだより案
■ カラーもモノクロもダウンロードできる イラスト集

株式会社 日本学校保健研修社　もっと良く、もっと新しく、もっと使いやすくなります。
〒615-0022　京都市右京区西院平町 7　TEL 075-326-6055　www.school-health.jp/　健

SHOGOIN YATSUHASHI

since 1689

聖護院八ツ橋総本店

京都市左京区聖護院山王町六　電話075(761)5151

第 71 回近畿学校保健学会役員

会　　長　　大川　尚子　　京都女子大学 心理共生学部

事務局長　　井上　文夫　　京都女子大学 心理共生学部

実行委員（50 音順，敬称略）

浅沼　徹　　京都教育大学

大西　祐子　　京都府養護教諭

河野　亘　　京都府歯科医師会

下村　雅昭　　京都女子大学 心理共生学部

高島　智香　　京都市養護教諭

中村　亜紀　　京都女子大学 心理共生学部

長村　吉朗　　京都市学校医会

西岡　伸紀　　京都女子大学 心理共生学部

橋本　和代　　京都府薬剤師会

長谷川　法子　　京都府総合教育センター

藤原　寛　　元京都府立医科大学

間瀬　知紀　　京都女子大学　発達教育学部

松田　義和　　京都府医師会

桃井　克将　　京都女子大学 心理共生学部

矢本　良江　　摂南大学　看護学部

事務局補助　古屋　満帆　　京都女子大学　心理共生学部

協　　賛　　京都府歯科医師会

後　　援　　京都府医師会，京都府歯科医師会，京都府薬剤師会，
京都府教育委員会，京都市教育委員会